

昭和二十八年

00

RA'-0622



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

次官  
官房長  
庶務課長  
條約局長  
第一課長  
第三課長

アジア局長 第五課長

奄美大島の復帰に関する陳情に関する件

本件に関し、一月二十七日鹿児島県町村議会議長副会長  
宇都宮敬吾以外六氏の来訴、別添外務大臣より奄  
美大島完全復帰方に関する陳情書と提出、鹿児島県大  
島郡全域の完全復帰の促進方と配慮願、正の旨と要請  
すゝと云ふが、あり。

外務省

次官 28.1.31  
南支班長  
庶務課 28.1.29  
条約局長 28.1.30  
第五課

0004

RA'-0622

0009

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

奄美大島元全侯藩方に関する陳情書

鹿児島市山下町自治会館内  
鹿児島県町村議会議長会

0005

RA'-0622



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

報 情 書

鹿兒島県東町村議会議長会は一月十九日第三回町村議會議員大会を開  
催し別紙の事項を慎重審議の結果決意一致を以て決議致しました。  
この件は本会の総意によつて決議された事項でその実施の一日も早  
い事を切望致して居りますれば政務御多端の折とは存じますが特別  
の御配慮により早急に実施下さるようここに陳情致します。

昭和二十八年一月二十八日

鹿兒島市山下町自治会館内  
鹿兒島県東町村議會議長  
会長 高野 季



外務大臣  
岡崎勝男殿

0006

RA'-0622

0011

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

一、奄美大島完全復帰方要望の件

進田

鹿児島県大島郡の一部は昨年日本復帰を見たのでありますがその大部分は未だに米軍政下であり、郡民の本國に對する思慕の情は年と共に募り日本復帰を唯一無二の生きる道として咽え難きに咽えて今日に至つて居りますれば同胞として詢に同情に堪えないところであります。

然るに全部の復帰は時の問題であるとも報せられ乍らも未だに実現せず。島民の人心は焦燥の一途を辿り經濟事情は日々に悪化する現状でありますればこれらの急迫せる事態を一日も早く救済するよう早急に大島郡全島の日本復帰方に最善の措置と配慮あらん事を要望するものであります。

0007

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

RA'-0622

0012

0008

謹啓

獨立第一年の新春を迎え、まことにお目出度うございます。  
さて先年十一月、十二月にかけて、奄美大島日本復歸の陳情員  
として、泉芳郎、村山家國、原口純治三名を派遣いたしましたし  
た際、貴下並に祖國八千万同胞が寄せられました御厚情に對  
し衷心から感謝申し上げます。

三陳情員の陳情經過報告によりまして祖國の皆様がわれら  
の苦境を十分に御理解下され、全國大会に縣会にあるいは國  
会にその他あらゆる會において、大島復歸促進の決議等なさ  
れ又八方御奔走御盡力賜わつたことを承り、郡民一同ただた  
だ感謝感激の涙にむせております。

南溟の孤島で只管祖國を慕う悲運の民、奄美大島二十余万  
郡民は、新玉の年を迎え、ますます悲願達成を心に誓い、復  
歸の日が一日も早からんことを祈りつゝ、明けくれております  
昭和二十八年一月二十五日第十五回日本復歸促進郡民大會に  
おいて全郡民の名をもつて、貴下並に祖國八千万同胞に深甚  
なる感謝の意を表すると共に今後の御盡力を伏してお願い申  
し上げます。

草々

昭和二十八年一月二十五日

奄美大島日本復歸協議會  
第十五回日本復歸促進郡民大會

岡崎勝男殿

RA'-0622

0013

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

官房  
総務課長

A 6. 1. 0. 1

アジア局長 第五課長

処理意見 (参陳オ二九号、オニロ二一号)

主席事務官 南方班長

オニロ二一号

オニロ二一号

政府としては、奄美大島に居住者の心情に對して深く同情し、同  
地域との関係と正常なものとすべく、従来より米國側と話し合  
と重ねてきており、米國側も同地域及びその住民に關するわ  
方の気持と充分に理解してゐるものと信じてゐる。今後と処理地  
住民の希望達成の爲めあらゆる努力をする所存である。

外務省

0009

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

参陳

第一九号

鹿児島県大島郡の行政権回復に關する陳情

鹿児島県大島郡は、米軍の占領下にあること既に七箇年、  
いまや郡民の生活は疲弊しこのままでは收拾のできない重  
大事態に陥つてゐる。しかるにその救済の道は、同郡を  
鹿児島県政下に復歸させ、日本政府の保護に賴る以外に  
なく、現地住民も祖國復歸を唯一無二の希望としてゐるか  
ら、大島郡諸島全域の行政権回復について善処せられたいとの陳情。

外務省

0010

RA'-0622

0014

参

陳 第二〇三号

奄美大島の完全復歸に關する陳情

鹿児島県奄美大島郡は占領七年にわたる軍政の結果住民はかつてない深刻な生活苦に陥つており、島民は日本復歸をすみやかに実現せられたいとの陳情。

外務省

0011

請

第一二六四号

奄美大島の日本復歸等に關する請願

奄美大島の住民は国家独立後の今日本土復歸を熱望しているから、すみやかにこれが実現されるよう善処するとともに、留學家族の身上を察して戦犯者の赦放を促進せられたいとの請願。

外務省

0012

RA'-0622



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan



官房長  
外務課長  
アジア局  
第一課長  
第二課長  
第三課長

46101-2

アジア局長

第五課長

主席事務官

南方班長

都内北区滝野川才立小學校児童の菴美大島  
日本復帰著名簿提出に關する件

アジア局才立課  
(昭二八三三三)

本件に關し都内北区滝野川才立小學校六年生所屬

洋子父親とともに未課別添著名簿を提出するともに

菴美大島の早期日本復帰に關し外務大臣の特別の配

慮を要請するところありし。



28. 2. 24

0013

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

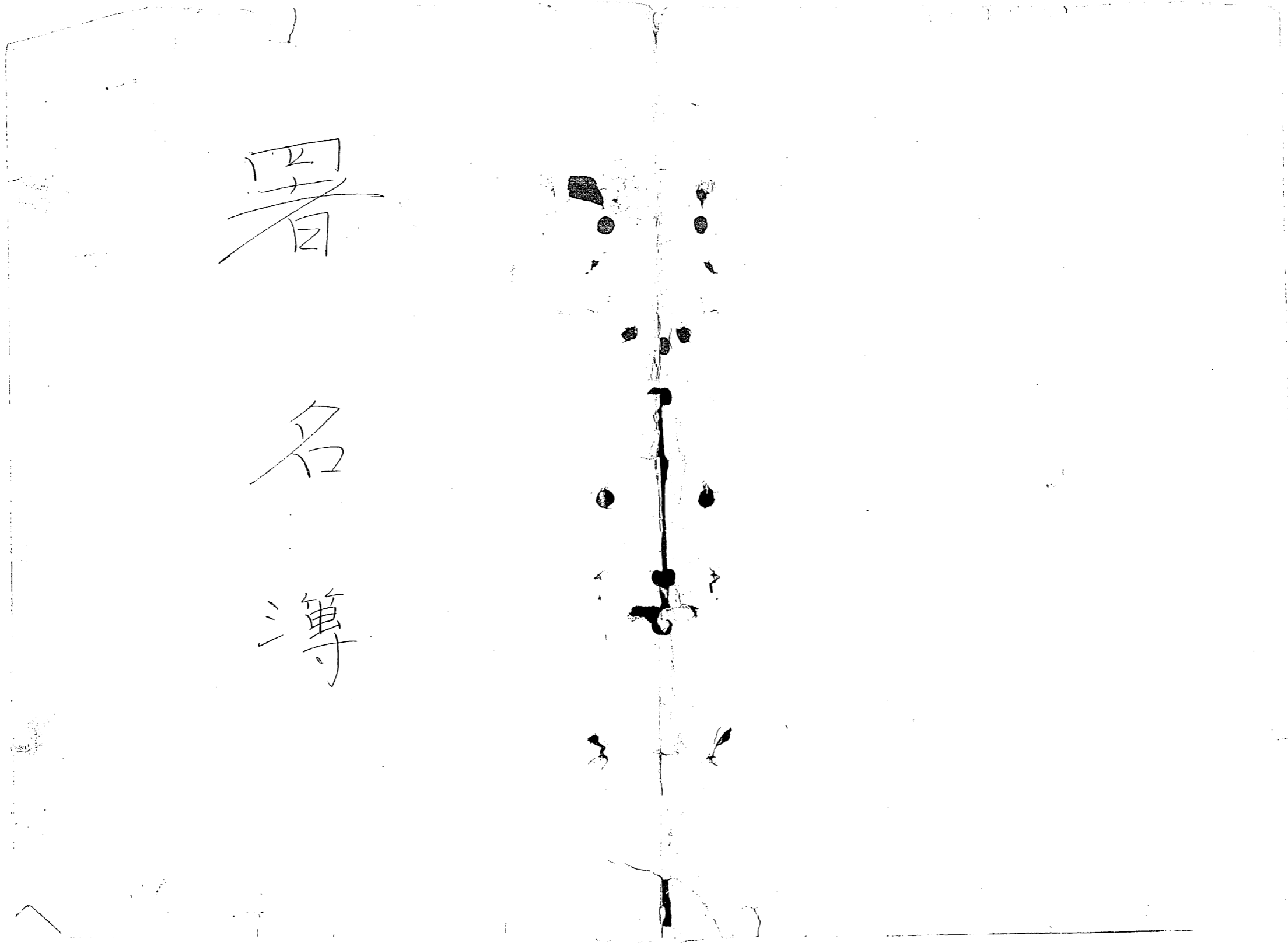
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0622





RA'-0622

0017



### ゆめにまで見る日本 早く好きな母国へ帰りたい

対日平和条約が署名されて翌日日本を離れたい願望が溢れるようになった。島々へ小島列島を離れたい。島民の心願「日本復帰」の運動がすすんでいく。その中心に立って来たのが、東京に同島連合会を組織した島民の代表者である。その中心に立って来たのが、東京に同島連合会を組織した島民の代表者である。その中心に立って来たのが、東京に同島連合会を組織した島民の代表者である。

**私達の願いをきいて下さい**  
奄美大島のお友達か  
ら内地のお友達へ

#### 小学生達の作文

名瀬小学校二年 もり田みな子  
小学校の先生が、お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。

同 久保たえ子  
お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。

#### 奄美大島のお友達から内地のお友達へ

同校六年 守 孝次郎  
お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。

同校六年 東 利高  
お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。

同校六年 本田 豊次  
お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。お話を聞かしてくれました。

署名  
名簿

0014

RA'-0622

0018

署名して頂くわけ

右の新聞記事に作文があります様に奄美大島は  
アメリカの土地になって居りますので向こうのお友達は百七早く  
日本の土地となる事を今盛に運動をして居ります。  
私達も此の島を早く日本に返して頂く様第五小学校生徒  
と目などで署名して運動したいと思ひますから何卒  
串協力下さいます様お願い申上げます。

六の二 町島洋子

氏名

校長先生 梶 茂 著

先生 五月女 睦子

先生 太田 政

先生 小松 まつ子

先生 茂木 繁次

先生 上山 治利

先生 大門 誠

先生 平野 ひで子

先生 安西 孝子

君 表 島 邦子

先生 中原 マツ子

先生 日 白 英子

先生 原 弟 子

先生 中 垣 恭

先生 木 村 潔

先生 本 南 京子

先生 朝 本 トミ子

先生 岩 橋 貞子

先生 伊 藤 文江

0015



|            |            |             |            |            |            |            |            |            |             |            |            |            |             |            |             |            |             |
|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|
| 六年<br>平井惠子 | 六年<br>川上正実 | 六年<br>北野富美子 | 六年<br>其田洋子 | 六年<br>緒形幸子 | 六年<br>神保豊子 | 六年<br>磯部桂子 | 六年<br>浦野蕙子 | 六年<br>佐藤孝子 | 六年<br>小栗山久子 | 六年<br>根本晴子 | 六年<br>田中沃子 | 六年<br>村松玲子 | 六年<br>谷内信子  | 六年<br>浅川正子 | 六年<br>中山紀世子 |            |             |
| 六年<br>日向孝  | 六年<br>石原重信 | 六年<br>伊沢隆男  | 六年<br>我妻豊子 | 六年<br>石井道代 | 六年<br>橋本時子 | 六年<br>川崎孝子 | 六年<br>花山律子 | 六年<br>小宮紀子 | 六年<br>三枝由美子 | 六年<br>木村百々 | 六年<br>丹波靖  | 六年<br>北原郷子 | 六年<br>玉虫希久子 | 六年<br>牛込美子 | 六年<br>中山三枝子 | 六年<br>渡辺光子 | 六年<br>長谷川健三 |

0016

RA'-0622

0020

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

|          |          |          |          |          |          |          |          |           |          |           |           |           |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 五年 菊池 和子 | 五年 加藤 洋子 | 五年 山崎 弘子 | 五年 高野 昭子 | 五年 海野 迪子 | 五年 高山 久代 | 五年 稻毛 禎子 | 五年 白川 貞代 | 五年 木村 明美  | 五年 霜越 洋子 | 五年 田口 由美子 | 五年 三井 富子  | 五年 阿久 沢昭代 | 五年 藤田 玲子 | 五年 高橋 慧子 | 五年 大島 正子 | 五年 佐藤 照子 | 五年 中川 篤子 | 五年 山屋 照子 | 五年 岩本 寿子 | 五年 金子 和子 |          |
| 五年 武藤 琴路 | 五年 寺田 朝子 | 五年 伴 利子  | 五年 宗像 好子 | 五年 小林 敏子 | 五年 後藤 瑞穂 | 五年 山本 幸子 | 五年 大野 紀子 | 五年 渡部 美智子 | 五年 植原 信子 | 五年 植原 信子  | 五年 太田 育合子 | 五年 原 田洋子  | 五年 川口 厚子 | 五年 玄間 末子 | 五年 馬場 和子 | 五年 永瀬 紀子 | 五年 寺崎 公子 | 五年 城 尚子  | 五年 小 林昌子 | 五年 端 子   | 五年 玉置 邦子 |

0017

RA'-0622

0021

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

|          |         |         |        |         |        |          |         |         |         |         |         |          |         |         |        |
|----------|---------|---------|--------|---------|--------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|--------|
| 四年 山田典尚  | 四年 飯野正昭 | 四年 内田一幸 | 四年 宮本博 | 四年 塩野千昭 | 四年 荒川孝 | 四年 木林田喜之 | 三年 海野綾子 | 三年 石田桂子 | 三年 雲野光子 | 三年 須藤信子 | 三年 金子佳代 | 三年 塩出加代子 | 三年 榎本初枝 | 三年 小木   | 三年 小木  |
| 四年 加藤日出雄 | 四年 池田光博 | 四年 谷口宗宏 | 四年 立島孝 | 四年 鹿谷尚弘 | 四年 佐藤弘 | 大島昭吉     | 六年 山田章  | 六年 山田幸春 | 六年 青木功男 | 六年 武井武雄 | 六年 山崎芳高 | 六年 中田義長  | 六年 河本考史 | 六年 渡辺吉友 | 三年 沼田聰 |
| 四年 石井信高  | 四年 里重和  | 四年 石井信高 | 四年 里重和 | 四年 里重和  | 四年 里重和 | 四年 里重和   | 四年 里重和  | 四年 里重和  | 四年 里重和  | 四年 里重和  | 四年 里重和  | 四年 里重和   | 四年 里重和  | 四年 里重和  | 四年 里重和 |

0018



四年西形文子

四年水野信次

四年大出政夫

四年菊池道子

四年伊東昭雄

四年田島文明

四年二宮節子

四年小田辺千代子

四年村山佳世子

四年木村伊都子

四年山上久惠

四年小出規子

四年栗野善子

四年下川床登子

四年櫻井富子

四年春原美佐子

四年吉村典子

四年吉村典子

四年今井照子

四年小那重朝

四年武藤和子

四年田原七生

四年藤田鈴子

四年原順子

四年横尾貞子

四年龍山悦子

四年高橋ふし子

四年西田美子

四年牧永子

五年会沢洋子

三年橋本久直

二年藤記一雄

二年太美おし

四年玉虫由枝

三年田中和子

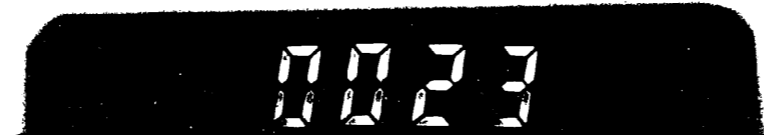
六年藤記多香子

三年安斎弘昭

五年塩塚昭三

四年吉村典子

0019





|                            |  |  |
|----------------------------|--|--|
| <p>三年 町島和子<br/>六年 町島洋子</p> | <p>父兄 町島正男<br/>父兄 坂詰平一<br/>先生 石山亮<br/>父兄 高尾後夫</p>    | <p>三年 角田勉<br/>四年 高山三十三<br/>三年 川村ふゆ子<br/>父兄 井上忠次<br/>父兄 塚野辰之助</p> |
|                            | <p>父兄 田島正利<br/>五年 橋本敏江<br/>中学年 大久保貞一<br/>六年 斎藤未子</p> | <p>五年 相原征治<br/>五年 栗原孝之<br/>四年 仲野寛<br/>父兄 町島八重子<br/>五年 本白忠雄</p>   |

0020

RA'-0622

0024

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

No. 2

No. 1

東京都区立滝野川第五小学校  
 六年町島洋子

私はいつもいつもラジオを聞いたり新聞を見  
 るのですが新聞にゆめにまで見る日本とい  
 題で奄美大島のお友達の作文が出ているのを  
 見つけました。  
 それを読んで見ると速~~速~~日本に帰りたい~~速~~  
 この島をかえして下さるようにもお願いの作  
 文がたくさんありました。  
 この文を見て私はたいへんきょくに思いま  
 た。  
 その時頭の中に思いうかべたのは私達でとう  
 にならぬものかという考えでした。  
 なんだか学校へ行ってもそのことばかりを考  
 えていました。  
 日本は独立したもののこの奄美大島はまだか  
 えしてもらえないのは残念です。  
 青空に高く上げられない奄美大島アメリカに  
 びきとられた日本人なんとなさけないことな  
 らいでしよう。

20x20

0021

RA'-0622

0025

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

No. 4

No. 3

これを考へるなりなみだが出ます。  
 私達の力でまきつとまきつとかえして、もうえるよ  
 うに内地のお友達で出来るだけ協力していき  
 たいするまゝ分の一にもむくいたいと思いま  
 す。  
 先生や生徒に、お願いをして、署名運動をしたの  
 です。  
 この私の思いが一日も遅く奄美大島のお友達  
 にとどいたなら、ほんとうに私ほうれしいと思  
 います。  
 私もひき上げ者の一人として、あのすみなれた  
 カラフトも又なつかしいあのわが家もかつて  
 いたただいたばかりの着物もソ~~連~~のためにはせん  
 りようされてしまったのです。  
 考へてみると、まったく奄美大島のお友達とお  
 なじ運命だと思ひます。  
 カラフトは、とうていかえしていただけないが  
 奄美大島だけでも私達の手によつてかえして、  
 いたただけるように奄美大島のお友達と私達内  
 地のお友達と協力してアメリカにお願ひしたな

20x20

0022

RA'-0622

0022

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan



供覽

大臣  
次官  
官房長  
総務課長

土下  
アシア局長

第五課長

電信

外務大臣岡崎勝男殿

（二八四三四着）  
倉美大島日本復帰協議會

四月二十八日目前に控えて貴取並びに政府当局の困難なる  
国際情勢に対処しなむる倉美大島の領土回復について絶大  
の関心と努力を払ふまう小の御厚意に対し衷心から敬意と  
感謝を捧ぐるものであります。この日中が國民の日本復帰に對す  
る熱望の裏切ら小の痛恨の日になつたのであります。郡民三十余

外務省

28. 4. 28

0024

万の屈辱的を記念日迎へるに當り更に貴取並びに政府が  
格段の理解と責任をもち我々の血涙の悲願即時日本復帰  
を世界の機関に訴之下ることを要望し早この日を期しこ  
の熾烈な熱願に應えらるんらかの処置が講じられ眞正和解  
と信頼の講和らし、大義名分を發揮せらるるよう期待して告  
ります。倉美大島日本復帰協議會

外務省

0025

RA'-0622

0028

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

上野 了

分類

|   |                |      |        |                  |
|---|----------------|------|--------|------------------|
| 主管  | アジヤ局長          | 主任   | 第五課長   | 昭和28年4月30日 起草    |
| 宛   | 奄美大島各瀬市        | 発    | 岡崎外務大臣 | 電送第 004275 号     |
| 件名  | 奄美大島の日本復帰に關する件 | 記録件名 |        | 電送第 28.4.30 日 時分 |
| 略   |                | 暗    |        |                  |
| 貴電に感謝の意を表す。各位の御希望に副うよう現に<br>極力折衝を進め、今後ともその実現に一層努<br>力致す所存である。 |                |      |        |                  |

電信課長



発電係

30

電報係

0026

大臣  
次官  
官房長

アジヤ局長 第五課長

電信課

(三八・五一着)

鹿児島県大島郡人会発

岡崎外務大臣宛

平和條約発効の記念日に當り鹿児島県大島郡の苦痛

極度に急迫せる現状にのみ速やかに日本復帰の熱願を

達成せしめらるるよう格別の御高配を懇請す。鹿児島県

大島郡人会

外務省

28.5.4.

0027

RA'-0622

0029

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

除  
解  
第11回公開

秘

A'6.10.1-2

只今南方連絡事務局より電話あり、奄美大島の日本復  
 帰運動長鹿見島県総務部長らを加わり向題を起して、  
 旨の別添電信がそしく、名瀬及び那覇市長らから未だ日  
 の連絡がみつた。皆か本件詳報の未だ目下は部外秘にして、  
 之にこの由。

アジア局長 第五課長

奄美大島の復帰運動に関する件

ニハ、五、八  
(午後三時三十分)

待  
ニハ、五、八

28.5.9.

0028

外務省

0029

電信

南方連絡事務局長宛

田上所長宛

六月三日部長(註鹿見島県総務部長)は、民政府を討ち、未だの目  
 的を説明し解を得た。六日歓迎部民大会に出席し挨拶を行つた。こ  
 民政府は石大会は事実上の復帰大会であることを見せし、七日朝沖  
 島の電話指令に基づき、奄美地也警察部長を通じて一行が今後の活  
 動を中止し、早便で帰国す。以下の口頭指令を差した。目下受入

外務省

側は民政府に事情を訴え、之を善処方交渉中なり。本官も同調解決に  
努力す。田上

電信 (一)

田上所長 発

七月十五時半より十七時で当地受入側はケネス大尉に事情を訴  
え一行に對する退去命令の取下り方を交渉して、一応行動  
の自由を許可した。ケネス大尉は十七時十分本官を訪れ、

外務省

0030

本件に關しては明朝神鏡に連絡し、神鏡からの新正を指令に従つて  
最後の善処措置をとる。ケネス大尉は一行の善意を強調  
し善処方を要請した。

電信 (三)

今城所長 発

七日フオスター(列民政官)曰く「三井總務部長、川崎サカヨシ外  
三名は大島にて、今回の手討の真の目的は復帰問題なり」と語り

外務省

0031

0031

RA'-0622

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan





81

昭和二十八年五月十一日

陳情書

奄美大島母國政府連絡會



0033

RA'-0622

0033

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0000  
0000  
0000

0034

昭和二十八年五月十一日

奄美大島母國政府連絡會長大津欽治  
南方連絡事務局長石井通則殿  
奄美大島  
母國政府  
連絡會長

陳情書

客月小林第一課長御来島の節當地已當面の諸問題について取敢えず口頭を以て陳情した（まゝに）が、公務御多端の折柄甚だ恐縮に存じますが左記の通り事情を具して更めて陳情いたしますから関係各首と御折衝方御配意賜りますようお願い申上ります。

なお本件に關しまして五月六日米島の三井麻児島縣總務部長にも一應陳情書を提出いたしましたので麻児島縣からも同様要請があることと思ひますが、何卒よろしく御配意の程お願い申上ります。

記

第一 在日疎結資産の解除解決促進に關する事項

(恩給、遺家族援護金、貯金、保険、補助金、國債等)

右の中緊急に解決促進をお願い致さない。恩給に關しましては恩給対策委員長からも陳情説明がなされては通じますが、政府でも既に特別措置法等の立法化と附随する諸種の具體的準備を着々進捗しつつ、あらゆる趣で、関係者も一同総力を傾けるのであります。これが急速なる実施についで御努力をお願い致します。

それに軍人遺家族援護法に因る遺家族援護金の支給に關し、まことに筆を盡せぬ苦境な生活状態にある者が多く、殊にこの援護金と当込んで資金の借入を爲して困っている者がある次第であります。かり、これを急速に支給されますように促進御努力をお願い申上ります。次に貯金、保険、國債の償還等に未解決のものが多いようであり、

C  
C  
C  
C  
C  
C  
C  
C

○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

特に外地（朝鮮、台湾、満洲等）における貯金等の払戻措置について  
促進して戴かねばならないものが、多いようであり、  
これ等のことに関しては、琉球政府でも在外資産調査會の如きものを組  
織して具体的調査にかつていようでありますから、何れ数字的に関  
係当局からも隋情せらるゝこと、思ひます。

なお右の外に戦争中の國庫補助金や、離費補助金や、行政費で地方分  
配税や國庫下送金、健康保健組合補助等、当時の大島支庁その他國  
縣の出先機関の行政費等で昭和二十五年頃までのものが、一〇九〇萬円程あり、当時  
算措置がなされていゝるもの、未着のもの、一〇九〇萬円程あり、当時  
の臨時政府財政部当局から発表されていゝる。

局から数字的折衝がなされるものと思ひますが、よろしくお願ひ致し  
ます。  
(1) 又戦前から戦争中の即民の粒々辛苦による貴い貯蓄の中で凍結されて  
ゐる貯金が

行政処分高當時の額  
2. 右の内、その内、保証付の額

|    |                  |
|----|------------------|
| 現在 | 一八、二八〇、一五三、月〇三、三 |
|----|------------------|

(2) 保険の方を申しますと  
1. 行政処分高當時の保険料払込金が、六、五〇八、五八三、月〇六、〇  
2. 行政処分高後保料未払の額が、二、五七三、三三三、月〇三、一  
ハ、現在、三、九三三、三五七、月〇四、九

となつてあります。  
= 参考までに現在の受持件数を申しますと  
成人、一〇七、三四八件、一〇三、一三三、月〇三、〇  
小児、三一九、〇四件、二六、三九二、月〇〇、〇  
計、一三九、三三二件、一三九、五〇三、月〇三、〇

であります。  
(3) 年金の方を申しますと  
1. 行政処分高當時の掛金高（凍結高）三三三、〇七四、月〇五、八  
2. 行政処分高後の保証高が、一〇九、三三四、月〇七、七

○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

0035



〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

(4) 債券の方を申しますと

イ 証券(玉債)買上

七五七、九一七円一九

ロ 年金恩給

六七、五〇九円七八

であります。

2、此の凍結資産の中、当地已の特種事情として行政処分前後に  
いて当地已の区内を以て保証払戻しがあることであります。この決済は日  
 を以て為して貰いたいことを強く望みますから実現方を促進御努力し  
 て戴きたいことを要請いたします。

5) 次に(4)配慮によりまして去る二月から開始せられた日、疏向為替送  
 金の状況は、当地区関係は次の通りであります。日本からの送金額は  
 大島から日本への送金額約 110 という状況であります。

この低調の理由は日本内地における送金手続の煩雑さと一面一般に周知  
 されてゐない点にあるとあり、その改善を期してこの実施配意をお願ひいた  
 したると思はれます。

日本 - 奄美大島内 為替送金状況  
 大島振出 (大島から日本への送金)

| 月別 | 口数   | 金額          |
|----|------|-------------|
| 二月 | 三七二  | 三八四、五六四円一〇  |
| 三月 | 三〇三  | 六一八、七八七円五〇  |
| 四月 | 四二三  | 八七二、〇〇二円〇〇  |
| 計  | 一〇七七 | 一八七五、三五三円六〇 |

日本振出 (日本から大島向送金)

| 月別 | 口数 | 金額         |
|----|----|------------|
| 二月 | 一〇 | 一九、三七二円七〇  |
| 三月 | 二二 | 四八、七九五円八〇  |
| 四月 | 四三 | 九九、七一〇円七〇  |
| 計  | 七五 | 一三七、八七八円二〇 |

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇



④大島農業協同組合連合会関係の預金で凍結されている金額が、

五九三六、〇一九円一八ありまして暫下組合の運営上支障を来している窮状にありますから早急なる解決促進をお願い致します(別表添付いたしますから併参照下さい)

以上の凍結資産の解除解決は枯渴する本郡経済の振興発展の大きな礎石となることを信ずるものがありますから、格別の配慮と御配慮を懇願申上る次第であります。

第三 五海運会社協定による運賃値下げに関する事項

永い間鎖まわりの大貿易制限、海航制限の弊も母國政府の御配慮により漸く開かれまして、郡民のよろこびは一方ではないのであります。この表のみに横たわる隘路と隘路が、この五海運協定による運賃問題であります。この協定運賃が吾々二十余万郡民の経済に及ぼす影響はまことに大きいものがあります。

例を申しますと、先づ人の運賃で  
麻見島——西之表間 六。淫の折 四三〇円(日本円)

麻見島——名瀬間 二。五運 距離にて三倍余のところは均す

運賃八三〇円(日本円)となり約六倍の運賃となっております。

さらに五社協定による運賃表で見ますと、麻見島から宝島までの運賃が一、〇〇〇日本円と成っており、一軒当り三円四三三銭となり、宝島から名瀬までの距離八七軒で換算して二九八円四一三銭となるから、結極名瀬まで一、二九八円四一三銭(四三三円八〇三銭)を支払えばよいものを現行八三〇円を施行し、約二倍の運賃を事実上支払っていることになり、次に貨物運賃の戦前、戦後の運賃の比較は別表のとおりであります。このことに関しましては、商工會議所会頭からもせられて、通りであり、ますから、この運賃が、吾々郡民の日常経済生活に及ぼす影響が、おこに大きいものであることが明らかであります。この切実な声と、苦境を関係部内に訴えられまして、最も適正な運賃を施行し、戴きますよう御盡力下さいますことを要請いたします。

C  
C  
C  
C  
C  
C  
C  
C  
C  
C



第三、砂糖消費税の施行措置に関する事項

佛承知の通り黒糖の生産は本邦の基幹産業であり、且つ大島油と共に二大産業の一つであります。最も国民経済に大きな繋がりをもつ主要産業であります。故に生産者においても出稼得るだけの生産コストを切下げて農家経済の振興方策を講じて、あります。現在、砂糖（本年四月で一斤当り一、三仙）では本邦に見るに忍びない状況にあり、その為、これに加わる砂糖消費税の施行措置による、之等の隘路を幾分なりとも打開出来るよう、これが実現を政府当局に對して、極力と申配慮をお願する所を、あります。

第四、砂糖の政府補償買上に関する事項

新聞の報ずるところによりますれば、駐日貿易代表団から琉球政府経済局長に送られた通信により、さきに経済使節団が日本政府に要望した年間五千噸の黒糖買上の問題について、食糧庁は琉球オリーブ主張の特別な政治的配慮が加わった場合は別として、早急実施は難実があるというようであり、黒糖が奄美大島の農家業

唯一の換金作物として、群島経済の支柱をなして来たことは、言を待たないことである。戦前大島糖業の振興については、母國政府の強大なる保護助成政策がとられて来たのであるが、行政権分離によってこれらの措置が絶たれ、逐次戦後の要条件を克服し、増産を見せると共に、質においても、目覚ましい向上を示しつつあるが、世界糖業の発展による増産は、糖価の下落をも予想れ、必然的に生産コストの切下げが緊急に要請される。本邦産黒糖の販路即ち唯一の消費地たる母國に於ける需給計画、輸入計画には、國內糖と同様に特別の措置を講じていただきたい。即ち北海道甜菜糖生産振興臨時措置法の如き琉球黒糖生産振興特別措置法の如き立法措置による保護育成を、切に望みます。然る上に奄美大島黒糖の政府補償買上の立法措置による実現を期せられたいことを切に要請いたします。

0038

第五 義務就学児童用教科書の日本内地同様無償配布方に関する事項  
 義務就学児童用教科書代を而も募納代金と以て購入することは現在の  
 大島経済においては父兄に課せられる経済的負担に堪えられせんやを  
 母國の温情によりまして、本群島のこれらの児童にも母國の同胞と同  
 じく何等かの形で御惠送賜りましたらば、之等の小國民がどんなに  
 幸福な國民教育を受けることが出来ませうかと、格別な  
 御配意を伏し懇願申上存る次第であります。

このことに關しましては、何れ連合教職員組合長からもいたし、お願ひ申  
 上存ること、思いますが、何とかよろしく御配意の程懇願いたす所です。

第六 渡航許可の緩和並に急遽許可方に関する事項

折角開かれた三十九夜線の関門を越えて旅行せんとする人々は、眞に巨  
 志を得たに迎られた事柄によつて旅行するものがあることは既に仰承  
 知のとおりであります。然るに日本本土から当地已之の旅行許可が  
 まだ相違な日数を要するため、急を要する場合には間に合はず、困ら  
 いる人が多い現状にありますので、せめて先願して二週以内では許可  
 されるように事務的にも措置を講じていただきますよう切に御配  
 意をお願いするものであります。





(註)

奄美大島農業協同組合関係在外凍結資産早期解除  
促進に關し別紙の通り琉球中央政府に対し陳情中であ  
ります。母國政府に於ても之が早期解除実現方御協  
力下さるよう懇願中と存じます。

0040

RA'-0622

0040

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

一九五三年四月二十日

大島農業協同組合連合會會長 大津 鉄治

在外凍結資産早期解除促進陳情書

終戦後三十年度を境界に日本との行政不協となり講和條約の発効により  
二十九年度を以て分島を余儀なくされ奄美群島の経済は一大変革を来し  
三十三年度以来アメリカ政府の恣意による保護政策の恩恵に浴びたりた  
るにも拘らず農村経済は窮迫の一途を辿り之が打開のため政府並に関係機  
関は懸命の努力を傾注して来たが、依然として窮乏の姿は日に深  
刻化して農民生活は極度の逼迫を来しつつある現状である。

本群島住民の八〇%を占める農家の組織する農業協同組合が組合員農  
家の生活の安定を図りその日常生活を保持助成する協同組織とし  
ての役割は重大であるが、戦後の農業協同組合は夫々戦災を蒙りその後  
に多大の資金を要し従って資金の固定化、組合員の貯金の引出しによる資金  
の減少、資本、蓄積の減少、又激変動による資金の不足、その他諸種の悪条件  
に制約され加うるに戦前における組合員の預貯金が、別表の通り在外資産とし  
て凍結された事は本群島農業協同組合枯渇の主要原因である。従って戦後の農  
協は運営資金を喪失し更に莫大なるかりオア物資代金老千五百貳  
拾四万六千円余の未納債務を背負ひ込み之が納入も遅々として延引の現  
況にあることは農村経済の極度の行状りと農協組合の不振も物語るもの  
がある。

斯くの如き逼迫せる経済情勢下における農協不振打開は自力のみにては例  
底覚束なく内都府には各営の合理化を図ると共に対外的にも隘路打開の  
ため折衝を續けてきたのであるが、幸い先般協同組合中央金庫法が制定さ  
れ協同組合中央金庫の発足に依り金融協同組合が中金融の恩恵に浴  
得たことは組合金融に一大光明を齎したものであり更に又協同組合整備奨励  
金交付規程が制定され協同組合再建整備のため之が施行は不振の現況にある  
協同組合に活力を與えるものとして当然要請するべき施策だと思われ、  
上述の如き不利な条件下にある組合運営の苦境を打開し農協本来の使命を達成

0041

0042

すむためには幾多隘路克服にあるとは云え資金の充實が先決問題かと思料され故に  
当連合会總會に於いて凍結資産の早期解除促進陳情を議決し去年十一月廿七日  
大農連庶務第二九号を以て之が陳情書を提出したるがその曙光を見る  
に到らず此處に再度別紙の通り各組合凍結資産種類別債権、債務先明細書  
相添之が早期解除方陳情する次第であるが貴政府に於て右窮情由買  
察被下日本政府に対し積極的に折衝を繼續下され早期解除が実現する  
措置有る陳情する次第である

0042

RA'-0622

0042

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

01000000000000000000

在外通商資本調査

資産總計 5,932,216.57  
負債總計 12,197.38  
差引資産 5,920,019.18

各組合別内訳  
大陽農業協同組合連合会

| 種別       | 金額           | 種別       | 金額           |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 債権先(預貯)  | 10,072,042   | 債権先(預貯)  | 10,072,042   |
| 中央倉庫振替貯金 | 5,920,019.18 | 中央倉庫振替貯金 | 5,920,019.18 |
| 赤十字振替貯金  | 12,197.38    | 赤十字振替貯金  | 12,197.38    |
| 中央倉庫大阪支所 | 5,920,019.18 | 中央倉庫大阪支所 | 5,920,019.18 |

2. 大陽市農協

| 種別       | 金額           | 種別       | 金額           |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 銀行預金     | 10,072,042   | 銀行預金     | 10,072,042   |
| 振替貯金     | 5,920,019.18 | 振替貯金     | 5,920,019.18 |
| 現金       | 12,197.38    | 現金       | 12,197.38    |
| 中央倉庫(大陽) | 5,920,019.18 | 中央倉庫(大陽) | 5,920,019.18 |
| 農協連      | 2,072,042    | 農協連      | 2,072,042    |
| 銀行仕組     | 2,072,042    | 銀行仕組     | 2,072,042    |
| 貸出       | 10,072,042   | 貸出       | 10,072,042   |

3. 三方村農協

| 種別       | 金額           | 種別       | 金額           |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 債権先(預貯)  | 10,072,042   | 債権先(預貯)  | 10,072,042   |
| 中央倉庫(預貯) | 5,920,019.18 | 中央倉庫(預貯) | 5,920,019.18 |
| 赤十字振替貯金  | 12,197.38    | 赤十字振替貯金  | 12,197.38    |
| 中央倉庫大阪支所 | 5,920,019.18 | 中央倉庫大阪支所 | 5,920,019.18 |
| 農協連      | 2,072,042    | 農協連      | 2,072,042    |
| 銀行仕組     | 2,072,042    | 銀行仕組     | 2,072,042    |
| 貸出       | 10,072,042   | 貸出       | 10,072,042   |

4. 大和村農協

| 種別       | 金額           | 種別       | 金額           |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 債権先(預貯)  | 10,072,042   | 債権先(預貯)  | 10,072,042   |
| 中央倉庫(預貯) | 5,920,019.18 | 中央倉庫(預貯) | 5,920,019.18 |
| 赤十字振替貯金  | 12,197.38    | 赤十字振替貯金  | 12,197.38    |
| 中央倉庫大阪支所 | 5,920,019.18 | 中央倉庫大阪支所 | 5,920,019.18 |
| 農協連      | 2,072,042    | 農協連      | 2,072,042    |
| 銀行仕組     | 2,072,042    | 銀行仕組     | 2,072,042    |
| 貸出       | 10,072,042   | 貸出       | 10,072,042   |



0045

10 住用村農協

|      |       |            |    |         |           |
|------|-------|------------|----|---------|-----------|
| 龍野農協 | 振替貯蓄金 | 12,424,441 | 農協 | 推廣準備貯蓄金 | 4,723,122 |
|      | 定期貯蓄金 | 1,275,000  |    | 小資金     | 2,017,177 |
|      | 預備貯蓄金 | 2,720,000  |    | 債       | 2,860,000 |
|      | 長期貯蓄金 | 2,720,000  |    | 券       | 1,246,500 |
|      |       | 2,720,000  |    | 貸       | 2,665,500 |

11 龍郷村農協

|      |         |            |        |         |           |
|------|---------|------------|--------|---------|-----------|
| 龍郷農協 | 推廣準備貯蓄金 | 24,121,120 | 日本政府   | 推廣準備貯蓄金 | 1,212,000 |
|      | 定期貯蓄金   | 1,570,000  | 日本農林公社 | 小資金     | 2,517,000 |
|      | 預備貯蓄金   | 29,549,000 |        |         |           |
|      | 長期貯蓄金   | 63,500,000 |        |         |           |
|      |         | 63,500,000 |        |         |           |

12 箕利村農協

|      |         |               |            |         |           |
|------|---------|---------------|------------|---------|-----------|
| 箕利農協 | 推廣準備貯蓄金 | 2,161,720,000 | 日本政府(大蔵大臣) | 推廣準備貯蓄金 | 2,802,000 |
|      | 定期貯蓄金   | 2,600,000     | 日本勸業銀行     | 推廣準備貯蓄金 | 2,021,000 |
|      | 預備貯蓄金   | 32,381,500    |            |         |           |
|      | 長期貯蓄金   | 48,255,000    |            |         |           |
|      |         | 48,255,000    |            |         |           |

13 喜原町農協

|       |       |            |            |         |           |
|-------|-------|------------|------------|---------|-----------|
| 喜原町農協 | 定期貯蓄金 | 28,755,000 | 日本政府(大蔵大臣) | 推廣準備貯蓄金 | 2,523,500 |
|       | 預備貯蓄金 | 2,621,500  | 親銀千代田保証公社  | 保險金     | 1,511,000 |
|       | 定期貯蓄金 | 22,611,000 |            | 保險金     | 3,772,200 |
|       | 預備貯蓄金 | 11,771,000 |            |         |           |
|       | 長期貯蓄金 | 20,422,000 |            |         |           |
|       |       | 20,422,000 |            |         |           |

14 早野村農協

|       |       |            |    |         |           |
|-------|-------|------------|----|---------|-----------|
| 早野村農協 | 定期貯蓄金 | 19,500,000 | 農協 | 推廣準備貯蓄金 | 6,517,000 |
|       | 預備貯蓄金 | 3,775,000  |    | 小資金     | 1,111,000 |
|       | 定期貯蓄金 | 12,487,000 |    |         |           |
|       | 預備貯蓄金 | 2,277,000  |    |         |           |
|       |       | 2,277,000  |    |         |           |

15 豊津町農協

|       |       |               |            |         |               |
|-------|-------|---------------|------------|---------|---------------|
| 豊津町農協 | 定期貯蓄金 | 4,020,250,000 | 日本政府(大蔵大臣) | 推廣準備貯蓄金 | 2,702,100     |
|       | 預備貯蓄金 | 4,613,770,000 | 日本農林公社     | 小資金     | 4,221,425,000 |
|       | 定期貯蓄金 | 1,200,000,000 |            |         |               |
|       | 預備貯蓄金 | 3,413,770,000 |            |         |               |
|       |       | 3,413,770,000 |            |         |               |

16 真天城村農協

| 種別      | 種類         | 金額         | 備考                                     | 種類 | 金額      |
|---------|------------|------------|--|----|---------|
| 借入金(預光) | 短期貯蓄       | 177,040.14 | 農協組合連合会<br>日本銀行<br>農協中央会<br>農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 長期貯蓄       | 45,171.11  |  |    |         |
| " "     | 振替貯蓄       | 30,220.47  | 農協中央会(大城大)                             | 種類 | 金額      |
|         | 振替貯蓄       | 500.00     |  |    |         |
| " "     | 日本農系組合     | 156,100    | 農協中央会(大城大)                             | 種類 | 金額      |
|         | 農協中央会(大城大) | 156,100    |  |    |         |
| " "     | 中央農系組合     | 21,000     | 農協中央会(大城大)                             | 種類 | 金額      |
|         | 中央農系組合     | 21,000     |  |    |         |
| " "     | 酒販農会       | 45,100     | 農協中央会(大城大)                             | 種類 | 金額      |
|         | 酒販農会       | 45,100     |  |    |         |
| " "     | 日本農系組合     | 1,101.62   | 農協中央会(大城大)                             | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合     | 1,101.62   |  |    |         |
| " "     | 日本農系組合     | 10,909.50  | 農協中央会(大城大)                             | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合     | 10,909.50  |  |    |         |
| " "     | 日本農系組合     | 220,220.11 | 農協中央会(大城大)                             | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合     | 220,220.11 |  |    |         |
| 資老計     |            |            |  |    | 251,110 |

17 天城村農協

| 種別      | 種類     | 金額         | 備考         | 種類 | 金額         |
|---------|--------|------------|------------|----|------------|
| 借入金(預光) | 短期貯蓄   | 18,100     | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額         |
|         | 長期貯蓄   | 207,516.85 |            |    |            |
| " "     | 振替貯蓄   | 22,000     | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額         |
|         | 振替貯蓄   | 22,000     |            |    |            |
| " "     | 日本農系組合 | 1,101.62   | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額         |
|         | 日本農系組合 | 1,101.62   |            |    |            |
| " "     | 日本農系組合 | 10,909.50  | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額         |
|         | 日本農系組合 | 10,909.50  |            |    |            |
| " "     | 日本農系組合 | 220,220.11 | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額         |
|         | 日本農系組合 | 220,220.11 |            |    |            |
| 資老計     |        |            |            |    | 260,997.91 |

18 永泊所農協

| 種別      | 種類     | 金額         | 備考         | 種類 | 金額      |
|---------|--------|------------|------------|----|---------|
| 借入金(預光) | 短期貯蓄   | 410,222    | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 長期貯蓄   | 30,000     |            |    |         |
| " "     | 振替貯蓄   | 21,122.64  | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 振替貯蓄   | 21,122.64  |            |    |         |
| " "     | 日本農系組合 | 10,141.96  | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合 | 10,141.96  |            |    |         |
| " "     | 日本農系組合 | 42,013.93  | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合 | 42,013.93  |            |    |         |
| " "     | 日本農系組合 | 2,572.11   | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合 | 2,572.11   |            |    |         |
| " "     | 日本農系組合 | 500.00     | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合 | 500.00     |            |    |         |
| " "     | 日本農系組合 | 105,000    | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合 | 105,000    |            |    |         |
| " "     | 日本農系組合 | 10,500.32  | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合 | 10,500.32  |            |    |         |
| " "     | 日本農系組合 | 5,204.633  | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合 | 5,204.633  |            |    |         |
| " "     | 日本農系組合 | 209,453.31 | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合 | 209,453.31 |            |    |         |
| " "     | 日本農系組合 | 280,000    | 農協中央会(大城大) | 種類 | 金額      |
|         | 日本農系組合 | 280,000    |            |    |         |
| 資老計     |        |            |            |    | 314,210 |

20 21 22 23

20 新嘉坡農協

|      |           |         |      |           |            |
|------|-----------|---------|------|-----------|------------|
| 農林銀行 | 振替貯蓄金     | 12,600  | 農林銀行 | 振替貯蓄金     | 420,000    |
| "    | 定期貯蓄金     | 1,374   | 農林銀行 | 定期貯蓄金     | 1,000,000  |
| "    | 活期貯蓄金     | 608,400 | 農林銀行 | 活期貯蓄金     | 250,000    |
| 農林銀行 | 振替貯蓄金(積立) | 1,120   | 農林銀行 | 振替貯蓄金(積立) | 20,550,000 |
| "    | 定期貯蓄金     | 5,200   | 農林銀行 | 定期貯蓄金     | 420,000    |
| "    | 活期貯蓄金     | 97,000  | 農林銀行 | 活期貯蓄金     | 420,000    |
| 計    |           |         | 計    |           | 420,000    |

21 新嘉坡農協

|      |           |        |      |           |        |
|------|-----------|--------|------|-----------|--------|
| 農林銀行 | 振替貯蓄金     | 2,000  | 農林銀行 | 振替貯蓄金     | 50,000 |
| "    | 定期貯蓄金     | 2,000  | 農林銀行 | 定期貯蓄金     | 50,000 |
| "    | 活期貯蓄金     | 18,000 | 農林銀行 | 活期貯蓄金     | 50,000 |
| 農林銀行 | 振替貯蓄金(積立) | 500    | 農林銀行 | 振替貯蓄金(積立) | 50,000 |
| "    | 定期貯蓄金     | 500    | 農林銀行 | 定期貯蓄金     | 50,000 |
| "    | 活期貯蓄金     | 18,000 | 農林銀行 | 活期貯蓄金     | 50,000 |
| 計    |           |        | 計    |           | 50,000 |

22 芙蓉村農協

|      |           |        |      |           |           |
|------|-----------|--------|------|-----------|-----------|
| 農林銀行 | 振替貯蓄金     | 83,000 | 農林銀行 | 振替貯蓄金     | 1,100,000 |
| "    | 定期貯蓄金     | 4,000  | 農林銀行 | 定期貯蓄金     | 800,000   |
| "    | 活期貯蓄金     | 1,400  | 農林銀行 | 活期貯蓄金     | 800,000   |
| 農林銀行 | 振替貯蓄金(積立) | 1,400  | 農林銀行 | 振替貯蓄金(積立) | 800,000   |
| "    | 定期貯蓄金     | 1,400  | 農林銀行 | 定期貯蓄金     | 800,000   |
| "    | 活期貯蓄金     | 1,400  | 農林銀行 | 活期貯蓄金     | 800,000   |
| 計    |           |        | 計    |           | 800,000   |

23 西村農協

|      |           |        |      |           |        |
|------|-----------|--------|------|-----------|--------|
| 農林銀行 | 振替貯蓄金     | 62,300 | 農林銀行 | 振替貯蓄金     | 54,000 |
| "    | 定期貯蓄金     | 14,200 | 農林銀行 | 定期貯蓄金     | 11,500 |
| "    | 活期貯蓄金     | 2,000  | 農林銀行 | 活期貯蓄金     | 11,500 |
| 農林銀行 | 振替貯蓄金(積立) | 14,200 | 農林銀行 | 振替貯蓄金(積立) | 11,500 |
| "    | 定期貯蓄金     | 14,200 | 農林銀行 | 定期貯蓄金     | 11,500 |
| "    | 活期貯蓄金     | 14,200 | 農林銀行 | 活期貯蓄金     | 11,500 |
| 計    |           |        | 計    |           | 11,500 |



戦前、戦后、白硫運賃調

| 品名  | 昭和14年時 |     | 戦前運賃 |     | 戦時運賃 |     | 対14年倍率 |
|-----|--------|-----|------|-----|------|-----|--------|
|     | 大坂線    | 鹿見線 | 大坂線  | 鹿見線 | 大坂線  | 鹿見線 |        |
| 小麦  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 大麦  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 粟   | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 豆   | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 米   | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 麦酒  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 化粧品 | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 文具  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 釘   | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 衣類  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 藥品  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 燐火  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 木材  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 肥料  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 糖   | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 牛   | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 蘇鉄葉 | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 火馬糞 | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 貝殻  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 毛皮  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 種油  | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 茶   | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 卵   | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |
| 塩   | 100    | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100    |

大正 3年 100.0  
昭和 5年 155.1  
昭和 10年 259.2  
昭和 15年 約175倍  
昭和27年7月現在 (東京小賣物價指数)  
約45.5倍



第一課長  
沖繩諸島並奄美大島の復讐と占領行政の解除についての陳情

沖繩諸島並奄美大島の復讐と占領行政の解除についての陳情

沖繩諸島並に奄美大島は終戦以来日本本土と分離され現在も占領行政が  
繼續されているが国の統治から分離されていることは、長く日本の領土  
であり住民が我々日本国民の同胞であることから考えるとき黙視し得な  
いことがある。

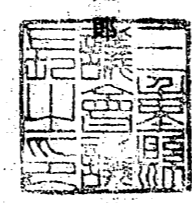
日本に復讐することは民族的にも歴史的にも文化的にも更に住民の眞情  
からするも当然の欲求であつて本質的には何等拒む理由はないと確信す  
るものである。

われわれ日本国の主權に關する沖繩並奄美大島の復讐と占領行政が一日  
も速かに解除せられる様有効適切なる措置を講ぜられんことを懇請する

近畿二府六縣議會議長会の決議により右陳情する。

昭和二十八年五月十九日

近畿二府六縣議會長会代表  
三重縣議會議長 野呂 顯太



外務大臣  
岡崎 勝男 殿

外務省  
秘書長  
岡崎 勝男

737局  
28. 7. 3  
第一課

0049 28. 7. -A

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

RA'-0622

0049

ニ公五三〇 室成 矢野 村 三  
三月三十一日 奄美大島の日本復帰に關する陳情書

奄美大島の日本復帰に關する陳情書

鹿兒島県大島郡は、一九四六年二月二日の連合軍司令官の命令によつて、北緯三〇度線をもつて立法、司法、行政の三權が日本と分斷されたが、対日平和條約によつては、これが北緯二九度線

による分斷され現在にいたつてゐる。終戦後の鹿兒島県大島郡の存在は大体以上のようであるが、七年にわたる本國との分斷によつて、いまやこれらの離島は、政治、經濟、教育、文化などあらゆる面で甚だしく窮迫し、本國復帰が實現されなければ、すでに救うべからざる状態にあるので、人道的に、立場から貴下の御援助を仰ぎたいと存じます。

第五課長  
日本と大島との關係

A 歴史的な關係

奄美大島列島は、すでに六一六年ごろから日本の行政下にあつたことが歴史的な事実によつて証明されてゐる。そして今から三四年前に、鹿兒島の封建大名の管下に入り、明治政府が出来てからは、鹿兒島県の一行政区として大島郡となつた。

B 血縁的な關係

現在大島に住んでゐる島民の数は、約二〇万人であるが、この島民にくらべて、日本に住んでゐる大島郡出身者の数は約一八万である。これだけをもつてみても大島郡の島民と日本との血縁的なつながりが、どんなに一体となつてゐるかわかり、これを分割することは無理なことと理解できる。

C 經濟的な關係

鹿兒島県の行政下にあつた時代の大島郡の經濟は、大島つむぎ、黒糖の日本への移出によつて支えられていた。すなわち戦前の

28.6.1

0050

大島の「大島つむぎ」の年産は二八万反で、全移出の六〇%、黒糖の生産量は約一七万斤で移出量の二〇%で、この二つで全移出の八〇%を占めており、日々々土と経済的に分割されれば大島の自立経済は根本的に崩壊せざるを得ない関係にある。人口配分からみても、島民の子養は本土を就取先としており、その故郷への送金も大島経済の大支柱である。

#### ロ文化的な関係

すむに以上のような条件からみても推察されるが、言語・文字・宗教・風俗習慣・新聞・ラジオ・映画・学校教育すべて日本と同一で何ら異るところはない。

### (2) 悲惨な大島郡の現状

#### A 一般的な苦境

立法・司法・行政の三権が日本から分離されたが、この三権のうちでも行政権の分割は、島民と日本との交通、為替、貿易などを非常に困難にしている。一九五三年二月二日にこの制限は、ある程度緩和されたが、それでも外国間の交通交易と同じ取扱がなされるので、旅券、為替送金、交易は複雑な手続と六〇日から九十日にもわたる長時日を要し、そのために一般郡民は物的、人的交流に甚だしく悩まれ、経済的にも苦境に迫られている。

#### B 経済的な窮状

右に記したように、大島郡の経済は「大島つむぎ」と黒糖の日本への移出、日々々土にいる郡民からの送金の三つに支えられていたが、行政の分割以後は、交通、交易、送金、資金が思うようにならなくなった。黒糖が戦前の生産額の三〇%に、「大島つむぎ」が一五%に低下し、一九五三年においては大島郡の輸出入は、輸出二百四十一万七千七百一十四ドル、輸入三百六十六万四千四百五十三ドルと、大きき輸入超過になっている。産業の不振による住民の困窮の

一例をあげれば、戦前大島つむぎの生産に従事していた者は、二万四千人(住民の約一割)であったが、これが最近では約四千人に減り、機械も三分の一しか操業していない状況である。

このような経済の窮迫、失業の激化は深刻な産業の荒廃、人口の島外流出となって現われているが、島民の現状は配給食糧をとりまわい者がたなくふえ、住民の六〇%はかろうじて飢をしのいでいる有様で、中にはソリの突のびん粉や野草を食っているものもいるくらいである。

c. 住民の島外への離散

経済的な深刻な窮迫、文化的な貧困は島民の外地への流出となつて現れてきている。一九五二年末の大島郡民の人口は二万九千二百人であったが、一九五二年末には二万六千五百六十六人に減っている。現在でもこの傾向はつゞき、毎月沖繩に流出する人口は月平均一千人に及んでおり、この人口の流出は大島郡の窮状を何よりも雄辯に物語っている。

D. 教育、文化の荒廃

学校教育の荒廃は、校舎に茅屋根、石壁、土間校舎、ガラスのない教室が多いことでもわかる。教科書、文具、図書の不足、教員養成の困難は児童生徒の学力低下となり、日本のそれとは二、三年のひらきがあり、日本への進学も大きな困難がある。

E. 人道の問題

このような経済的、精神的な窮迫は、青少年の犯罪率を増加させている。小学校五、六年の児童四百六十二名について調査したところ、家から逃げ出した者一〇名、逃げ出したことのある者七四名、死んだ方が良かった者一三八名とされており、希望を失った青少年の犯罪には当局と対策に苦慮している。生活困窮者のなかで二万名に及ぶ戦争遺家族は九〇%まで生活困窮者で、五八〇名にのぼる戦争未亡人は路頭にたたまようような生活を續けている。それによつて最も寒心にたえないのは、経済的窮迫のために島



民の女子が、好ましくもない取業を求めてつがいつきに琉球などに流出していることである。

0053

(3) 米國への訴え

このような窮迫した状況にあつて、島民は数年の間、数百回に及ぶ復帰郡民大会を行い、血書請願、断食請願、一四才以上の島民の九八%に及ぶ署名運動などもつづけ、日本では鹿児島で復帰県民大会、東京では復帰国民大会を行い、鹿児島県議会議会でも復帰促進の議決を行っている。大島郡民一九万は、いわば孤島に封鎖され、精神的にも物的にも民族分離の苦痛にまみり、さりのところまできている。これを解決する途は、せめて行政權の復帰だけでも、さしあたり実現され、交通、交易、為替が自由になることであり、それが実現すれば日本との相互扶助によつて、途はどのようにも開けるのである。

日米の親善は、窮迫と飢餓のなかから生れようとは思われない。将来の日米友好のためにも、また人道的立場からも貴下のこの問題に対する深い抑理解と抑援助を切にお願いたします。

一九五三年五月三十一日

日本國鹿児島県知事 重成 格

エリノア・ルークベルト夫人殿

RA'-0622

0053

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

奄美大島復帰問題についての知事行動日誌

昭和七年

一月二三日 奄美大島訪問 郡民大会にて挨拶

一月二六日 琉球軍司令官バートラー少将と会見

一月三〇日 岡崎外相に実情報告 協力方懇請

二月四日 鹿児島市自治会館における県民大会に出席  
実情報告

二月五日 県議会に於て状況報告

二月十一日 NHK鹿児島放送局を通じ奄美大島の实情放送

二月十七日 全国知事会議に於て奄美大島復帰について協力方懇請

二月十八日 S.M.I.前ユネスコ駐日代表と会いパリーのユネスコ本部に復帰促進方を要請

二月十九日 米國共和党政治顧問トルマン氏と会見

二月二十三日 泉名瀬市長と共に吉田首相訪問 復帰について協力方懇請

(二月二十五日衆院本会議に於て大島問題について決議案上程)

昭和八年  
一月一七日 午前 総司令部 極東軍總参謀長ヒッキー中将与会見 懇請  
午後 緒方副総理に協力方懇請

一月二十三日 午後五時 鹿児島市学生会にて大島復帰問題をめぐる街頭録音ゲストとして出席

二月三日 大島派遣学生と会見 激励

0054

1937. 2. 25. 官報外記

奄美大島に周する決議 (昭和七年二月五日官報外記)

本院は、奄美大島、沖繩、小笠原諸島等の旧日本領土の復帰に  
ついで、しばしば國民の熱望を明らかにし、政府に対し、その小笠  
切な措置を講ずべきことを要望した。

一 かるころ近時実情  
を調査するに、もと麻児島県の一部であつた奄美大島は、本土との  
人的、物的關係、特に深きためその二〇余万の住民の本土復帰の  
熱望は殊に強く、ほとんど生活の一切をこれにかけている有様で  
あるのみならず、同島の住民が望望におよび現在の麻児島県民  
に比して民生上、教育上、經濟産業上、格別の差異があり、よつと  
しく麻児島県民たりし事實にかんがみ、このまゝか過すことを得  
ないものと認めらる。

よつて本院は、政府に対し、この際旧日本領土の復帰につき、必要  
なるあらゆる措置を講ずるとともに、是れより麻児島県大島郡につ  
て特段の配慮をなし、その住民が産業、交通、教育、民生、遺家族

接護、恩給等生活の各段につき、本土住民と同等の取扱を受け  
ることを実現するための措置を速やかに講ずることを要望する。  
右決議する。

0055





奄美大島の現状

- 一 奄美郡島経済の窮状
- 二 経済窮乏の原因
  - 1. 貿易の不均衡
  - 2. 基本産業の衰微
  - 3. 政府補助金の停止
  - 4. 金融の硬化
- A 通貨の減少
- B 預金の減少
- C 金融の締め

奄美郡島経済の窮状

奄美郡島は今時大戦の戦災を蒙り、基本産業の生産手段を喪失したのみでなく、ニニ宣言により、母国政府の強力な補助保護が切斷せられ、郡島生産品の市場を失った結果、本郡島の経済は復興の原動力を失い、遂

次縮少の一途をたどり、住民生活は年と共に窮迫の度を加へて今日に至った。その間、米国民政府の復興予算による補助があったのであるが、これは戦災の傷手を蒙った本郡島の経済の再建には遠く及ばないものであり、奄美郡島経済が縮少を防遏するには至らなかつた。

米国民政府復興予算交付補助金

| 年次   | 復興予算                                     |
|------|--|
| 1947 | 8,818,243                                |
| 1948 | 8,466,547                                |
| 1949 | 11,817,509                               |
| 1950 | 31,466,470                               |
| 1951 | 8,786,446                                |
| 1952 | 8,598,720                                |
| 計    | 227,454,935                              |
| 備考   | 上記金額の中、直接生産を刺激する方面に投下せられた分は僅かに830万3千円である |

如く、食糧を主とする生活必需品の輸入は輸出を遙かに上廻り、果ては輸入超過の推積が結果として収支枯渇せしめるに至り、極度の金詰りを招き、生産の縮少と失業者を増大し、住民の生活水準を低下せしめ、購買力を減退は企業を危殆に陥れ、今や郡島経済の窮乏はその極限に

0056

達して居るものである。

ニ此頃直に住民の日常生活に重大な影響を及ぼし生活苦から来る凶悪犯罪を主とする犯罪件数の増大失業者の増加、転落要救護者の激増をきたし購買力は低下して主食食糧受給すら不可能となり遊民に約五〇〇名が甘藷蘇鉄に切替へて辛うじて露命をたもいて居る状態である。そのため内地引揚、沖運取等うため一九五三年初頭より毎月約一千人が本郡島から姿を消し一ヶ月間約一万人が減少している有様である。斯くて生活不安から来る人心の動搖は思想の悪化となりて現れて居る現状にある。

犯罪件数の増大  
各管内地区別

| 年次   | 犯罪件数  |
|------|-------|
| 1951 | 623   |
| 1952 | 1,304 |

要救護者の激増

| 年次   | 要救護者数 |
|------|-------|
| 1947 | 4,688 |
| 1948 | 6,452 |
| 1949 | 6,686 |
| 1950 | 7,150 |
| 1951 | 7,277 |
| 1952 | 8,547 |

|     |          |
|-----|----------|
| 期当量 | 127,7678 |
| 貸配量 | 127,945  |
| 積配量 | 577,732  |

| 年次      | 人口      |
|---------|---------|
| 1952年1月 | 214,134 |
| 2       | 213,661 |
| 3       | 213,200 |
| 4       | 212,188 |
| 5       | 211,148 |
| 6       | 210,169 |
| 7       | 209,357 |
| 8       | 208,238 |
| 9       | 207,042 |
| 10      | 206,083 |
| 11      | 205,703 |

失業者の増大

一、狭少な地域に尠大な人口を抱へ更に経済不況による企業の新短は失業者の増大となり、零細農家も転落現象と共に大きな社会問題となりて居る。

二、本郡島に於ける農耕上零細転落農家と見做されるものは約九千戸(家族を含めて三万七千人)此の他に他産業に属するものも、在失業者として統計上に表されては居ないが潜在失業者と目されるもの約四万六百人(家族を含め約一十九千人)程度と推定され、転落農家と合せ五万七千人程度の人々が、経済不況の犠牲となりて最低生活線より転落の断層に直面して居る現況にある。

0057

ニ急消の窮乏の原因  
ハ貿易の不均衡

一國經濟の成否は先づ國際收支の均衡如何にかゝつて如何であるが本所  
島の對外收支勘定は著しい不均衡を見せて居る。

| 年     | 輸入          | 輸出          | 入 超         |
|-------|-------------|-------------|-------------|
| 1.947 | 15,129,460  |             | 15,129,460  |
| 1.948 | 31,292,523  |             | 31,292,523  |
| 1.949 | 40,368,671  | 7,034,431   | 33,335,240  |
| 1.950 | 140,605,426 | 604,8753    | 134,555,673 |
| 1.951 | 49,168,360  | 274,328,040 | 212,357,200 |
| 1.952 | 60,460,513  | 272,300,681 | 33,715,831  |

即ち累年超過の結果奄美郡島の經濟は後退の一途をたどりつゝ、  
ありありであるが僅かに軍政府の復興予算、補助金及び沖繩に對  
する木材家畜類の移出等によつて辛うじて經濟を維持して來  
のであつた。

然るに一九五三年度以降は補助金打切りとなり、ニク貿易面が故  
補うことが出来なくなつたため經濟の窮乏は一九五三年度以降急  
激な現象となつて明瞭に住民生活の上に顕れて來てゐるのである。  
奄美郡島は戦前大伴に於て輸出入の均衡がとれて居りむしろ貿  
易面に於ては黒字の經濟であつた。

戦前の貿易收支

| 年次       | 輸入   | 輸出          |
|----------|--|-------------|
| 6        | 5,941,717  | 6,125,332   |
| 7        | 5,609,267  | 5,582,566   |
| 8        | 5,842,083  | 6,041,675   |
| 9        | 6,077,695  | 6,420,948   |
| 10       | 6,210,494  | 6,348,631   |
| 11       | 5,751,574  | 6,028,005   |
| 12       | 不明   | 不明          |
| 13       | 7,638,714  | 7,728,272   |
| 6年<br>推算 | 114,545,100                                      | 115,824,800 |
| 備考       | 昭和6年より12年までは物価指数不明のため8月換算せず昭和13年のみ物価指数150に付き換算す。 |             |

0058

RA'-0622



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

乙. 基本産業の表徴

然るに戦後においては市場及び生産機構と施設を喪失したために黒糖大島紬の基本産業が復興せず従って輸出は全く不振の狀態にある

| 基本産業復興率 |     |
|---------|-----|
|         | 復興率 |
| 黒糖      | 30% |
| 大島紬     | 15% |
| 百合節     | 32% |
| 鮭節      | 40% |

戦前大島紬は本諸島より戦前輸出総額十ヶ年平均約五十五%を占めて居り、経済を左右する重要産業であった。戦後三九年度線を相隔て、は日中市場開拓すること困難であったが一九五一年末漸く市場復活の曙光を見出したに過ぎない。

大島紬生産反数

| 年次   | 紬生産反数   |
|------|---------|
| 1940 | 217,590 |
| 1941 | 337,548 |
| 1942 | 252,338 |
| 1943 | 251,024 |
| 1944 | 41,482  |
| 1945 | -       |
| 1946 | 3,620   |
| 1947 | 3,840   |
| 1948 | 6,670   |
| 1949 | 10,700  |
| 1950 | 671     |
| 1951 | 22,294  |
| 1952 | 34,176  |

黒糖は戦前輸出総額十ヶ年平均約十八%を占める重要産物である。一九五年自由貿易協定施行以来順に生産を増大していると言へるが復旧は遠く食糧事情と関連するところがあり且つ日本市場の外国糖輸入に販売価格の問題が介在し現状に於いては戦前の実績を取戻すことは困難視されている。

黒糖生産量

| 年次   | 生産量        |
|------|------------|
| 1937 | 19,788,110 |
| 1938 | 22,941,283 |
| 1939 | 32,963,869 |
| 1940 | 17,935,251 |
| 1946 | 715,374    |
| 1947 | 2,117,374  |
| 1948 | 2,433,250  |
| 1949 | 3,057,385  |
| 1950 | 3,577,612  |
| 1951 | 12,500,000 |
| 1952 | 11,500,000 |

0059



本邦島経済振興のためには、この大産業の復興は最も重要な課題である。  
政府補助金の停止

戦前本邦島の経済はその輸物代金と内地出稼者の送金とが国果の予  
算、及び振興計画に基く補助金によって維持されてきた。

戦前の政府予算及補助金  
1937年

|      |         |
|------|---------|
| 国費予算 | 262,078 |
| 県費   | 154,613 |
| 下附金  | 437,548 |
| 振興費  | 182,388 |
| 計    | 314,267 |

この金額は現在流通貨の価値に換算すると、三  
億五千万円程度に及び、琉球政府の年間予算の奄  
美邦島割当は二億三千万円であるに比較すれば  
三倍に近い金額である。

この予算は、因庫下附金は、通常費であるが、特に振興費補助は一九三九  
年に始まり、終戦当時まで継続せられたものであり、この計画によつて産  
業は漸次高率化せられ、民生生活向上安定に寄与するところが極めて  
大なるものがあった。

これに比較して、終戦後米軍政府が与えた復興予算の補助（頁参

照）は、単に消極的に戦災を復旧するに止まり、積極的産業振興政策の  
実施には至らず、従つて経済復興は、販路の喪失等、隘路があり、如  
く進捗せず、縮少の一路をたどつて、今日に至つてゐる。

#### 4 金融の硬化

##### a 通貨の減少

輸入超過は、一九四八年以来、その累計は七億六千七百万に達して、居り、本邦島  
の通貨を多量に吸収枯渇せしめて居る。

この輸入物資の中には、生活上絶対に必要なガリオア資金による主食食糧が  
含まれて居るため、この食糧代金によつて、吸収せられる金額が大部分を占  
めて居り、これは見返資金とは異なり、民間に還元せられぬものは、なほ、に  
かかわらず、軍政府の補助金は、この吸収金額に見合はず、この六ヶ年間に僅か  
に十億二千の赤字にすぎないが、この通貨の急激な吸収は、民間流通通貨は  
減少し、蓄積資本を脅かすおそれ、輸入超過分と軍政府補助金の差額五  
億五千万の赤字は、それだけ資本を減少せしめて、賄はれたものであり、  
この蓄積資本が戦災によつて灰燼に帰して居る上に、更に資本の縮少を来す  
とは、本邦島経済を再起不能の状態に投じて居るものである。

0061

0061

斯くして通貨は枯渇して運営資金の缺乏を来すのみならず資本の減少は利潤率を低下せしめ生産能力を削減して縮少再生産をきたし産業の操短は失業者を増大して生活消費感し購買力の低下は中小企業を倒産に導いて居る状態である  
そのため住民の金詰りはその極に達し名瀬市に多い日傭労務者の増加は全く悲慘を極めて居りその口救食児童、救席児童の増加となり一方転落受救護者の激増となり社会問題を提供して居る

これに比し沖繩地区は貿易面に於ては年商約三十億円の入超に拘らず軍作業を中心とした島内邦貨獲得事業年商收入五十億円に達し憂鬱的な跛行経済であるといへ所謂邦貨過剰累々の現象を来たしている状態である

そのためあらゆる企業は活況に活動が続けられ住民所得は増大して生活水準を高め居ることは大島の経済が破高直前の危機にあることかうすれば雲泥の相違があり住民が取を求めて沖繩に移動する

所以と亦實にここにあり  
本預金の減少

経済不振、金融硬化のため預金能力は急再度を以て減退してあり各種企業運営資金の窮乏化、通貨の逼迫、民間蓄積資本の減少を来書して居る  
一九五二年四月以降本諸島金融機関に於ける預金の受払状況は次の通りである

0061

RA'-0622

0061

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

貸付状況

| 月  | 貸付高        | 回収高        | 残高          |
|----|------------|------------|-------------|
| 4  | 76,721,256 | 67,370,513 | 20,146,871  |
| 5  | 76,021,606 | 62,783,801 | 22,056,578  |
| 6  | 56,269,814 | 54,268,312 | 2,061,727   |
| 7  | 46,911,824 | 38,588,252 | 20,387,023  |
| 8  | 37,444,984 | 31,405,482 | 212,793,307 |
| 9  | 31,457,955 | 28,694,562 | 195         |
| 10 |            | 31,684,562 | 225,163,089 |
| 平均 | 52,235,000 | 44,770,000 | 210,426,000 |

四月の三分の一に激減して居る。  
このため流通面の金詰りはこれを明瞭にうかがうことが出来る。

金融

一九五二年四月以降に於ける金融機関の貸付は漸次引締め傾向にあり  
毎月平均一千万程度の収縮を見せ居り一九五二年九月に於ては

手金状況

| 月  | 手金高         | 払出高         | 残高          |
|----|-------------|-------------|-------------|
| 4  | 276,938,784 | 255,292,917 | 171,328,211 |
| 5  | 271,045,203 | 268,137,548 | 174,681,519 |
| 6  | 209,448,222 | 240,075,955 | 154,259,282 |
| 7  | 193,071,442 | 186,353,175 | 153,282,259 |
| 8  | 189,596,170 | 186,798,989 | 162,758,409 |
| 9  | 165,366,126 | 168,152,537 | 156,109,355 |
| 10 |             |             |             |
| 計  |             |             |             |

即ち住民の預金能力四月以後5月の間に於て約一億円を減少せしめて居る。

0062

金融機関の貸出抑制により産業資本の不足を来して生産活動を縮小せしめ対外收支の入超による通貨の収縮と相俟つて経済界は甚微沈滞し現在の窮乏の根本原因を形成してゐる。

特にこの貸出金額の本諸島内琉銀支店に於ける一九五二年七月の貸出合計は約三千万ドルであつてこれを琉銀本支店合計の貸付高が全年全月二億三千八百万ドルであるのに比較すると奄美群島は僅かにその一二六%を占めて居るのであつて、全琉的に見て奄美島の金融硬塞が明瞭である。

#### 4 租税負担の過重

金融の硬化、事業資本の不足、失業者の増大が奄美群島の経済が漸次縮小して経済活動が危殆に瀕して居るにもかゝらず租税公課は消費税物品税等間接税の増加により大衆に転嫁され日常生活に脅威を与へて居るのみでなく利潤に対して賦課せらるべき租税が利潤率の低下した現在の経済によつて負担せられる結果産業の資本に喰込むこととなり縮小が再生産の大きな原因となつて居る。

租税負担比較表

| 区分     | 政府税      | 市町村税                 | 計         |
|--------|----------|----------------------|-----------|
| 奄美群島政府 | 六四七五八四〇八 | 一五九二二七四〇             | 八〇六七〇五八二〇 |
| 琉球政府   | 七〇五四三三〇  | 一九八八六八七〇<br>(教育費を含む) | 九〇四三〇一七〇  |

即ち経済の縮小した一九五三年度は一九五〇年度よりと遠かに軽減しなげれはならぬのに対して遂に一九五二年度より過重に課税せられて居る政府税七千万ルを戦前の国縣税年間平均七千万ルに比較すると、は物酒が百倍に上昇したのと同一下度戦前と同額の租税となり生産が半減し累年輸入超過を来して居る本群島が戦前と同額を徴収することが既に租税の過重負担であることは否めない。





May 31, 1953

TO : MRS. ELEANOR ROOSEVELT

PETITION FOR RETURN  
OF THE ANAMI OSHIMA ISLANDS

FROM : TADASU SIGEMARI  
GOVERNOR,  
KAGOSHIMA-KEN,  
JAPAN

CONTENTS

|  | Page |
|--|------|
| 1. Petition for Return of the Anami Oshima Islands .....   | 2    |
| 2. Activities of Governor Sigemari, Kagoshima-Ken,<br>concerning the movement of the return of<br>the Anami Oshima Islands ..... | 8    |
| 3. Resolution by the House of Representatives<br>concerning Anami Oshima Islands .....   | 10   |
| 4. Present Situation of the Anami Oshima Islands .....   | 11   |

RA'-0622

0064

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

Petition for Return of The Amami  
Oshima Islands

May 31, 1953

To : Mrs. Eleanor Roosevelt  
From : Tadasu Sigenari, Governor of Kagoshima Prefecture

By the order of the Supreme Commander for the Allied Powers issued on February 2, 1946, the Japanese Government was deprived of the powers of legislature, judicature and administration over the Amami Oshima Islands, territories situated south of 30 degrees North latitude which, later on, was extended to 29 degrees N.L. by the Japanese Peace Treaty.

Since the separation of the Oshima Islands from the Japanese Government 7 years ago, the political, economic, educational and cultural situations of the Islands have been assuming an increasing precarious aspect, and, unless the return of the Islands is realized, there will be absolutely no means to help the Islanders out of this sad plight.

In this connection, from the point of view of humanism, I would like to ask for your generous and sympathetic support.

1. Relations between Japan and the Amami Oshima Islands

A. Historical relation :

It has been proved by the historical facts that the Amami Oshima Islands had been administered by the Japanese Government since 616.

- 2 -

344 years ago, the Islands were placed under the jurisdiction of the feudalistic lord of Kagoshima, and in the Meiji era the Islands were called "Oshima Gun" as one of the administrative districts of Kagoshima Prefecture.

B. Blood-relation :

The population of the Oshima Islands is approximately 200,000, while the Oshimans living in Japan Proper number 180,000. Viewed from this fact only, we can clearly see the closest intimacy of the blood relation between Japan and the Oshima Islands, and it is quite understandable that to separate them from Japan Proper is in itself unreasonable as well as unjustifiable.

C. Economic relation :

The economy of the Islands, when under the administration of Kagoshima Prefecture, was supported by the exportation of Oshima Pongee and brown sugar to Japan Proper. In the pre-war days, the output of Oshima Pongee amounted to 280,000 rolls per annum, equivalent to 60% of the total exports, that of brown sugar, 170,000 kin, 20% of the same, viz., the exportation of these two products occupied 80% of all the exports. Therefore, the economic separation from Japan Proper means a certain collapse of the Islands' economy. Furthermore, before the war, the remittance from Oshimans working in Japan Proper constituted a big prop of its economy.

- 3 -

RA'-0622

0065

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

D. Cultural relations :

As you may safely surmise from what is mentioned above, there exists very little difference between Japan and the Oshima Islands in language, literature, religion, customs and manners, newspapers, radio broadcasting, school education and others.

2. Tragic conditions of the Oshima Islands :

A. General View :

Of the 3 powers of legislature, judicature and administration which were separated from the Japanese Government, the dismemberment of the administrative power is making most difficult the communication, the remittance and the trading.

Although these restrictions were somewhat lightened on and after February 2, 1953, the Islands are still being treated as a foreign nation in the communication and the trade. Accordingly, complicated and red-tape procedures are required for application for travel permit, remittance and trading. Especially, for obtaining the travel permit, 60 to 90 days are needed. Under these circumstances, the commercial and personal communication have been greatly hampered, whereby making the economic conditions of the Islands much more miserable.

B. Economic plight :

As mentioned previously, the Islands' economy was sustained by the exportation of Oshima Pongee and brown sugar and the remittance from Oshimans living in Japan Proper.

However, since the separation of the administration, due to a lack of capital caused by many restrictions imposed upon transportation, commerce and remittance, the output of brown sugar has been reduced to 30% of that of the pre-war days, and that of Oshima Pongee, 15%. In 1952 the export was valued at 2,417,714 dollars, while the import reached 3,664,400 dollars, exceeding the former by a great deal. As one of the examples bespeaking the predicament of the islanders brought about by the industrial depression, cited here is the production of Oshima Pongee. Before the war, the workers engaged in its manufacturing numbered 24,000, which has now been reduced to 4,000, and, consequently, only one-third of the machines is now in operation. The economic bankruptcy and the marked increase in the unemployed have come to the fore in the form of economic devastation and emigration. There is an increasing number of the people who cannot pay even for their own rationed food. Some of them are eking out their meals with cycad and weeds.

C. Emigration :

The misery in the economic and cultural conditions has been sending exhausted islanders out of the Islands. The population of the Islands as of the end of 1951 was 219,200, while that of 1952 was 206,500. The number of emigrants has now reached 1,000 per month.

RA'-0622

0066

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

D. Delapidation of education and culture :

You may well imagine a delibitated condition of the school education at the sight of the school buildings, most of which are thatched, unfloored, stone-walled. Owing to a shortage of text-books and stationery as well as to difficulties in training of teachers, the attainments of the students fall far below the Japanese students of the same grade, and few students are qualified for matriculation in Japanese universities.

E. Humanitarian problem :

The economic and cultural plight has become a hotbed of juvenile delinquency. According to the survey conducted for 462 school-children, it was learned that 110 children wanted to run away from home, 74 children had the experience of abscond, and that 128 children replied, "Death is preferable." The authorities concerned are racking their brains in the prevention of the juvenile delinquency. 90% of the war-sufferers, numbering 20,000, has been pauperized. Especially most of the war-widows, out of the extreme predicament, are wandering in the streets. It is the most deplorable tendency that, for the sake of subsistence, some young women are going to Okinawa to become harlots.

3. Appeal to America :

Under these straitened circumstances, the islanders held the Return Mass hundreds times in these several years, performed a fast, and sent in an application in their own blood.

- 6 -

In addition, the signature campaign was fervently launched covering 99.8% of the islanders above 14 years of age.

In Japan, the Oshima Return Rally was held in Kagoshima in prefectural scale and in Tokyo in national scale. The resolution on the acceleration of return of Oshima was adopted in the National Diet and the Kagoshima Prefectural Assembly. Beyond all description are the agonies being experienced by 190,000 islanders who are confined to the secluded islands. Viewed from the above, the return of the administrative power is most urgently required for a resumption of the free communication between Japan and the Islands, which will cut the way for a mutual assistance.

I do not think the amity between U.S.A. and Japan would grow out of poverty and hungry. With this in mind, and from the humanitarian standpoint, I beseech you for your deep understanding as well as your hearty support.

- 7 -

RA'-0622

0067

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

Activities of Governor Sigenari,  
Kagoshima Prefecture, concerning  
the movement of the Return of  
ANAMI-OSHIMA ISLANDS

| Date          | Activities   |
|---------------|--|
| 23 Oct., 1952 | Visited Amami-Oshima and delivered message for the people's rally.   |
| 26 Oct., 1952 | Had an interview with Major General Robert S. Daightler, Deputy Governor of the Ryukyu Islands.  |
| 30 Oct., 1952 | Reported the actual condition of the islands to Foreign Minister OKAZAKI and entreated his cooperation for the return of the islands.            |
| 4 Nov., 1952  | Attended Kagoshima Prefectural People's Rally at the Local Autonomy Building in Kagoshima-City and reported the actual condition of the islands. |
| 5 Nov., 1952  | Reported the actual condition of the islands at Kagoshima Prefectural Assembly.  |
| 11 Nov., 1952 | Broadcasted the real circumstances through Kagoshima N.H.K. Station.   |
| 17 Nov., 1952 | Requested cooperation for the movement at the all-Japan Governors' Conference.   |
| 18 Nov., 1952 | Had an interview with Mr. S.M. LEE, former representative of UNESCO in Japan and requested the realization of the movement.                      |

- 3 -

|                |  |
|----------------|--|
| 19 Nov., 1952  | Had an interview with Mr. DORMAN, Political adviser for Republic Party, U.S.A.   |
| 23 Dec., 1952  | Visited Prime Minister YOSHIDA with IZUMI of BASE-City and entreated his cooperation for the return of the islands.  |
| (25 Dec., 1952 | Plenary Conference of the House of Representatives moved the resolution regarding the realization of return of the islands.)   |
| 17 Jan., 1953  | In the morning ;<br>Had an interview with LT. General Hickey Chief of Staffs, F.K.C. U.S.A. and entreated his assistance.<br><br>In the afternoon ;<br>Had an interview with Deputy Prime Minister OGATA and implored his cooperation. |
| 23 Jan., 1953  | Participated "Street Recording" as a guest that was held in front of Kagoshima City-Office.  |
| 3 Feb., 1953   | Met students who were despatched from Amami-Oshima to Kagoshima and encouraged them.   |

- 9 -

RA'-0622

0068

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

Resolution by the House of Representatives  
concerning Amami-Oshima Islands

The House of Representatives clarified to the world the earnest desires of the Japanese people for the return of Amami-Oshima, Okinawa, and Ogasawara Islands, formerly Japan's territories, and filed its request with the Government to take an appropriate measure. According to the recent survey of the real situations of the Amami-Oshima Islands, those islands, formerly a part of Kagoshima Prefecture, were, racially and materially, closely connected with Japan Proper and, as the result, the population of 200,000 were fervently desirous of realising the return of those islands to Japan Proper with all might and main. Viewed from the point that those islanders are extremely inferior economically, educationally and in the living standard to the people of Kagoshima Prefecture in spite of the fact that they were formerly treated as such, their real conditions, in our opinions, cannot be overlooked in the least.

Such being the case, the House of Representatives asks earnestly the Government to take not only every possible measure necessary to the return of those islands to Japan Proper, but also the rapid measure to materialise the equal treatment of those islanders with the people of Japan Proper in every field of living, that is, industry, communication, education, social welfare, relief of the bereaved family, pension and so on.

The House makes the above-mentioned resolution.

Present Situation of the Amami-Oshima Islands

INTRODUCTION

- A. Straightened circumstances with which Amami-Oshima Islands are now faced
- B. Cause of economic poverty
  1. Unbalance of trade
  2. Decline of the staple industries
  3. Suspension of payment of subsidy by the Government
  4. Stringency of the money market
    - a. Decrease of volume of money in circulation
    - b. Decrease of deposit
    - c. Tightness of the money market

- A. Straightened circumstances with which Amami-Oshima Islands are now faced

Amami-Oshima Islands, which suffered severe disaster of the last war, were deprived of not only means of production of the staple industries but also the profitable market for those products as the result of the severance of the effective means of subsidy by the Japanese Government. Consequently the economic conditions have gradually turned for the worse and the lives of the inhabitants have been reduced to the extreme poverty year by year.

The subsidy which was given to the Islands by the U.S.A. Civil Government was not large in amount enough to help economic reconstruction of those Islands.

Recovery budget and subsidy by the U.S.A. Civil Government

| Year | Recovery budget |
|------|-----------------|
| 1947 | 8,818,243       |
| 1948 | 8,466,547       |

|              |                             |
|--------------|-----------------------------|
| 1949         | 11,817,509                  |
| 1950         | 31,666,470                  |
| 1951         | 81,786,446                  |
| 1952         | 85,099,720                  |
| <b>TOTAL</b> | <b>227,454,935</b><br>(yen) |

Remarks: The amount invested to the production is only 2,302,000 yen.

In addition the imports of daily living necessities including food are by far the most than the exports, with the result that the yearly unfavourable balance of trade leads to the stringency of the money market, reduction of production, increase of unemployment and the decay of enterprise due to the decrease of the purchasing power.

Such phenomenon exerts the grave influence upon the daily lives of the inhabitants. The increase in the cases of theft, and the numbers of the poor have come to the fore. The half of the inhabitants has found it very hard to buy the rationed rice and live upon sweet potatoes and cycards. As the result, they were repatriated to the homeland and removed to Okinawa and about one thousand per month went out of the Islands since the beginning of 1952, thereby bringing about the degeneration of thought caused by the anxiety of life.

In crease in the numbers  
who need relief

| Year | Numbers who<br>need relief |
|------|----------------------------|
| 1947 | 4,688                      |
| 1948 | 6,454                      |
| 1949 | 6,686                      |
| 1950 | 7,150                      |
| 1951 | 7,277                      |

- 12 -

|      |       |
|------|-------|
| 1952 | 8,547 |
|------|-------|

|                     |                |
|---------------------|----------------|
| Allotted quantity   | 1,227,678 (Kg) |
| Rationed quantity   | 627,945        |
| Unrationed quantity | 599,732        |

Increase in the criminal cases

| Year | Numbers in the<br>criminal cases |
|------|----------------------------------|
| 1951 | 625                              |
| 1952 | 1,304                            |

| Month     | Population |
|-----------|------------|
| 1952 Jan. | 214,134    |
| 1952 Feb. | 213,661    |
| 1952 Mar. | 213,200    |
| 1952 Apr. | 212,188    |
| 1952 May  | 211,148    |
| 1952 June | 210,169    |
| 1952 July | 209,357    |
| 1952 Aug. | 208,238    |

- 13 -

RA'-0622

0070

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

|            |         |
|------------|---------|
| 1952 Sept. | 207,042 |
| 1952 Oct.  | 206,083 |
| 1952 Nov.  | 205,703 |

Increase in the unemployed

1. Dense population in the narrow area and reduction of production due to the economic depression have resulted in the increase in the unemployed.
2. The small-sized poor farmers amount to about 37,000 in number (about 9,000 houses) and the latent unemployed are estimated at about 19,000 including their family). This shows that about 57,000 persons have fallen into the straightened circumstances on account of the economic depression.

B. Causes of economic poverty

1. Unbalance of trade

The economic prosperity depends upon the balance of international trade. The trade conditions of the Amami-Oshima Islands show the extreme unbalance as below-mentioned.

| Year | Import      | Export      | Excess of imports over exports |
|------|-------------|-------------|--------------------------------|
| 1947 | 15,129,460  |             | 15,129,460                     |
| 1948 | 31,298,523  |             | 31,298,523                     |
| 1949 | 40,369,671  | 7,034,431   | 33,335,240                     |
| 1950 | 140,605,426 | 6,049,753   | 134,555,673                    |
| 1951 | 491,635,360 | 274,328,040 | 217,357,200                    |
| 1952 | 609,460,513 | 272,300,681 | 337,159,831                    |

The economic conditions of the Amami-Oshima Islands have been gradually degenerated as the result of the excess of imports over exports. The recovery budget, subsidy and the export of lumber and live-stock to Okinawa have made those Islands barely enjoy the economic existence.

However, due to the suspension of the supply of subsidy since 1953, the economic poverty has come to the fore ever since the latter half of 1952.

Generally speaking, Amami-Oshima Islands could make the foreign trade properly balanced before the war. As far as the foreign trade was concerned, it was favourable balance of trade.

Balance of trade prior to the war

| Year | Import    | Export    |
|------|-----------|-----------|
| 1931 | 5,941,717 | 6,125,332 |
| 1932 | 5,609,267 | 5,582,566 |
| 1933 | 5,848,083 | 6,041,675 |
| 1934 | 6,097,695 | 6,420,948 |
| 1935 | 6,210,494 | 6,349,631 |
| 1936 | 5,951,574 | 6,038,005 |
| 1937 | unknown   | unknown   |
| 1938 | 7,639,714 | 7,728,272 |

Computed in B yen  
currency 1,145,957,100 1,159,240,800

Remarks: Figures from 1931 to 1937 cannot be computed in B yen currency.



2. Decay of staple industries

However, staple industries such as crude sugar and Oshima Pongee have not been restored to its normal as the result of the destruction of production installations and loss of market after the war.

| Rate of recovery of staple industries |                  |
|---------------------------------------|------------------|
|                                       | Rate of recovery |
| Crude sugar                           | 30 %             |
| Oshima Pongee                         | 15 %             |
| Lily bomb                             | 32 %             |
| Dried bonito                          | 40 %             |

The exports of Oshima Pongee occupied about 55 % of the total exports on an average for 10 years before the war.

It was very hard to open the market for Oshima Pongee in Japan immediately after the war, but the first ray of hope for the exploitation of Japan's market seems to have been found at the end of 1951.

| Quantity of Oshima Pongee products |                   |
|------------------------------------|-------------------|
| Year                               | Quantity (in tan) |
| 1940                               | 217,590           |
| 1941                               | 337,548           |
| 1942                               | 258,338           |
| 1943                               | 251,024           |

| Year | Quantity (in tan) |
|------|-------------------|
| 1944 | 41,982            |
| 1945 | —                 |
| 1946 | 3,620             |
| 1947 | 3,840             |
| 1948 | 6,670             |
| 1949 | 1,070             |
| 1950 | 681               |
| 1951 | 22,294            |
| 1952 | 24,176            |

Crude sugar filled about 18% of the total exports on an average for 10 years before the war, but in spite of the increase in quantity of production ever since the opening of the free trade in 1950, its recovery to the pre-war level is still slow in speed and is regarded to be difficult at present on account of the increase in the importation of foreign sugar into Japan.

| Quantity of production of crude sugar |                   |
|---------------------------------------|-------------------|
| Year                                  | Quantity (in Kin) |
| 1937                                  | 19,789,110        |
| 1938                                  | 22,741,283        |
| 1939                                  | 32,963,869        |
| 1940                                  | 17,735,851        |
| —                                     | —                 |

| Year | Quantity (in kin) |
|------|-------------------|
| 1946 | 915,374           |
| 1947 | 2,117,374         |
| 1948 | 2,433,250         |
| 1949 | 3,057,385         |
| 1950 | 3,597,612         |
| 1951 | 12,500,000        |
| 1952 | 11,500,000        |

It is most important to restore these two staple industries to its normal for the purpose of rebuilding the economy of these Islands.

### 3. Suspension of subsidy by the Government

The economic stability prior to the war was entertained by the payment for prices of the exports, money sent from the emigrants to Japan Proper, budgetary disbursement, and subsidy by the Central Government and Prefectural Government.

#### Governmental budget and subsidy in 1937

|                                  |         |
|----------------------------------|---------|
| National expenditure             | 768,078 |
| Prefectural "                    | 954,648 |
| Grant                            | 437,548 |
| Expenditure for development plan | 982,388 |

|       |           |
|-------|-----------|
| Total | 3,142,627 |
|-------|-----------|

The above figure is computed 350,000,000 in the present currency, which shows about three times as large as 130,000,000.

National & prefectural budgets and grant were current expenditure and especially the subsidy for the development plan, which began in 1929 and continued till the end of the last war. This project contributed towards the stability and elevation of the inhabitants' living standard and the gradual development of various industries.

The subsidy for the recovery of the Amami-Oshima Islands by the U.S.A. Civil Government after the war-end is nothing but contribution towards the restoration of the war disaster, not effectuation of the policy of industrial recovery. In this manner, contrary to our expectations, the economic recovery has been gradually degenerating due partly to suspension of the Governmental subsidy, partly to the loss of profitable market.

### 4. Monetary stringency:

#### a. Decrease in currency

A remarkable excess in the import which has amounted to 767,000,000 yen since 1948, has been drastically draining the money in circulation in the Islands. Included in these importations are the foodstuffs, the first requisite to our living, financed by the GARICA fund, the money paid for which is to be refunded as a counterpart fund.

However, the amount of the grants we have received from the Civil Administration for these 6 years is only 22,000,000 yen, which means the balance of 55,000,000 yen between the excess in the import and the grants from the Civil Administration has been filled up by the reduction of capital accumulation whereby the economy of the Islands is being driven into the dying conditions.

A reduction of capital made low the interest rate, which, naturally, caused the output restriction, which, consequently increased the unemployed. Thus, the numbers of the pauper is phenomenally increasing. Contrary to these miserable conditions in the Oshima Islands, Okinawa is having a great boom in construction of military bases. Therefore, despite its conspicuous excess in the import amounting to 3,000,000,000 yen annually, the industrial activities are quite brisk and the living standard of Okinawans has been gradually elevated.

b. Decrease in deposit:

The bank deposit is showing the sharp downward tendency due to the industrial depression and the monetary stringency.

Shown below are deposit and disbursement of the financial agencies in the Islands.

| Month      | Deposit     | Disbursement | Balance     |
|------------|-------------|--------------|-------------|
| 1952 Apr.  | 270,739,794 | 255,292,917  | 171,328,211 |
| 1952 May   | 271,045,203 | 268,139,548  | 174,681,519 |
| 1952 June  | 209,448,222 | 240,075,955  | 154,259,282 |
| 1952 July  | 193,071,442 | 186,353,175  | 153,282,257 |
| 1952 Aug.  | 199,596,170 | 186,798,980  | 162,758,409 |
| 1952 Sept. | 165,366,126 | 169,152,537  | 156,109,355 |
| 1952 Oct.  |             |              |             |
| Total      |             |              |             |

c. Tightness of the money market

The financial agencies are clinging to the tightening policy and the loans shrink by 10,000,000 yen per month on an average.

| Month | Loan       | Redemption | Balance     |
|-------|------------|------------|-------------|
| Apr.  | 96,721,256 | 67,370,513 | 209,146,391 |
| May   | 76,021,606 | 62,783,801 | 220,560,578 |
| June  | 56,269,814 | 54,268,312 | 206,117,271 |

| Month      | Loan       | Redemption | Balance     |
|------------|------------|------------|-------------|
| July       | 46,911,824 | 38,588,252 | 203,870,123 |
| Aug.       | 37,444,984 | 31,405,482 | 212,173,307 |
| Sept.      | 31,457,955 | 28,694,562 | 195,000,000 |
| Oct.       |            | 31,684,562 | 225,163,089 |
| An average | 52,235,000 | 44,970,000 | 210,426,000 |

For instance the amount of money loaned by the Oshima Branch of Ryukyu Bank in July 1952 was only 30,000,000 yen, while the total loans of the Ryukyu Bank in the same period was 338,000,000.

In spite of the pinching poverty of the islanders, the tax burden has become heavier than before due to the crippled finance of the Government.

Comparable table of tax burden

|                           | Governmental Tax    | Municipal Tax                   | Total               |
|---------------------------|---------------------|---------------------------------|---------------------|
| Anami-Islands Government  | (yen)<br>64,758,408 | (yen)<br>15,912,174             | (yen)<br>80,670,582 |
|                           |                     | (Including educational expense) |                     |
| Ryukyu Islands Government | 70,543,310          | 19,886,817                      | 90,430,127          |
|                           |                     | (Excluding educational expense) |                     |

In the 1951 fiscal year which experienced the economic inactivity, the burden of tax should have been mitigated more than in the 1952 fiscal year. In fact, more excessive tax than in the 1952 fiscal year has been imposed upon the inhabitants. The Governmental tax numbering 70,000,000 yen corresponds to the same amount of tax prior to the war as compared with 700,000 yen on an average per year prior to the war if prices of commodities are computed to be 100 times as large as the war level. Accordingly, it cannot be denied that to levy the same amount of tax on the inhabitants of Amami-Oshima Islands, where the produced quantity decreases by the halves and the excess of the import over the export occurs, is the excessive imposition of tax on the inhabitants.

アジア局長

第五課長

二八・六・八

奄美大島に関する陳情に関する件

別添陳情書は奄美大島右瀬市所定の奄美大島

母国政府連絡会から南方連絡事務局長宛送付の小冊

子の寫である。

本陳情書にふさは従来ものと異なり日本復帰問題を

云々することなく大島現地におよそ解決さるべく当面している

問題即ち(債権)処理、運賃値下げ、現地糖業に付する

外務省

28.6.-8 0087

RA'-0622

0075

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

A'6.101-2

THE FOREIGN SERVICE  
OF THE  
UNITED STATES OF AMERICA

ADDRESS OFFICIAL COMMUNICATIONS TO  
American Embassy,  
Tokyo, Japan,  
June 15, 1953.

Mr. Ryoko Nakayoshi,  
Tsurumi-ku, Yokohama.

Dear Sir:

Ambassador Allison has asked me to express his appreciation for your letter of May 23 and your words of welcome upon his return to Japan.

The subject of the Ryukyu and Bonin Islands is under constant consideration by the United States Government. Please be assured that in its study of the problem the United States is well aware of the desires and aspirations of the Japanese people and will give them full consideration in reaching its decisions.

Sincerely yours,

For the Ambassador:

John M. Steeves  
First Secretary of Embassy

0089

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 内 | 的 | 諸 | 措 | 置 | を | 実 | 施 | 若 | し | く | は | 考 | 慮 | し | て | い | ら | る | 事 | 項 | に | 限 | ら | ず | い | ら | る |  |
| 度 | の | 簡 | 易 | 化 | 等 | 政 | 府 | に | お | き | も | 取 | り | 上 | り | て | 対 | 米 | 折 | 衝 | 力 | を | 至 | 国 |   |   |   |  |
| 政 | 府 | の | 補 | 助 | 義 | 務 | 教 | 育 | 用 | 教 | 科 | 書 | の | 無 | 償 | 配 | 付 | 渡 | 航 | 制 |   |   |   |   |   |   |   |  |

外  
務  
省

0088

RA'-0622

0075

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

次官  
官房長  
総務課長  
條約局長  
才三課長

アジア局第五課長

アジア局長

第五課長

二八・六・一六



奄美大島の婦人代表の上京に関する件  
奄美大島の日本復帰運動は、講和條約調印前後  
を契機として日増しに熾烈化している。現地の婦人代表として  
島連合婦人会長 基八重子、副会長 橋口初枝の  
二名が上京し、本上の官民各界に現地の実状を訴え、奄  
美大島の日本復帰の促進運動を行っている。  
右代表は、本工在任現地出身代表に伴り、五月十五日迄

外務省

28.6.20

0090

0091

評を未訪、別悉「日本の皆林に訴う」と題する趣意書を撰  
出して本運動の趣旨を説明、奄美大島の即時日本復帰  
に付き政府の<sup>如何か</sup>措置を要請するところがある。  
右代表は、中央区銀座東三丁目一番地、三原橋ビル内  
奄美群島日本復帰対策委員会事務局と連絡場所と  
して約一ヶ月に亘り全国的に運動を行ふ由である。

外務省

RA'-0622



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

日本の皆様に許す

母國日本の皆様に奄美大島の現状を訴えて、奄美大島の祖國復帰促進に協力下さいませよ。懇願申上げます。

奄美大島は日本の最南端、九州の南方海上に在る六つの島からなつていて薩南諸島と称せられ、琉球列島とは別に特に日本建國以來日本本土と密接な關係を保持し、民族発展を遂げて来たのであります。

一九四六年一月までは「鹿児島縣大島郡」として母國日本の懷に抱かれ、住民の經濟生活は、細糖、藍節を生産し市場を日本本土に求め、これによつて生活はうるおつて来たのでありますが、日本の敗戦を機に一九四六年二月三日マツカサ一指令により北緯三十度以南(奄美大島、油縄、小笠原群)の島々は祖國日本から分離され、アメリカの軍政下に置かれました。更に一九五一年サンフランシスコで締結された対日請諾条約第三條に「日本國は北緯二十九度以南の南西諸島等を合衆國で唯一の施政権者とすべし」と置くこととする國際連合の如何なる提案にも同意するこの様な提案が行われ

0092

かつ可決されるまで合衆國は領水を含むこの島の

諸島の領域及び住民に対して行政立法及び司法上の権力の全部及び一部を行使する権利を有するしと規定され三十度線から二十九度線へと緯度が一度切り下げられため、今まで吾等を共にして来た奄美大島の一部十島村が日本へ帰る事になりました。しかしながら北緯二十九度線という姿なき鉄のカーテンは何時取り去られると云ふあてもなく、奄美二十余万郡民は、この中で日夜苦慮呻吟し続いております。

それは現在の奄美大島の位置はまた國連に提出されていながらアメリカの信託統治でもなく、アメリカの属領でもない。主権を領土杯も日本にありながら、それが認められないう、世界歴史に類例の無い極めて不自然な位置に立たされてゐるものがつながらにぶつてなされていたあらゆるものが二十九度線によつて断ち切られた為、総てのものが植揚するといふ状態であります。現在幾分はアメリカの援助が行われていますが、日本本土の島の唯一の基幹産業である細糖は、日本本土に販路が極度し狭められてゐるため振わず、經濟

0093

状態は破綻にひんしているのであります。更に同じ日本人でありながら日本本土への旅行は外国への旅行と同じく出入國の手続もつて許可制になりパスポートが無ければ自由には渡り出ま存( )といった状態にあります。この為親子離れになり肉親の病氣を聞き死亡を知つても渡航許可が無いため直ぐに馳けつける事が出来なく親の死因にも會えな( )息を引きとる最後の瞬間まで日本本土に居る子を( )祖國を慕つて死んで行つた( )争奪は枚挙にいとまが無いのであります。或者は母親の危篤に法を犯して本土から密航で帰島した( )違法入國のカードで刑務所につな( )れる( )有様であります。更に戦前學問の島と言( )はれて( )いた大島は現在に於て、渡航の困難と經濟難のため日本本土の就学状況は、その数に於て戦前の( )年千人に對し現在( )は十人( )で( )お( )よ( )び( )、( )五( )%に( )不( )足( )す( )。尚( )こ( )の( )悪( )候( )件( )下( )に( )於( )て( )は( )女( )子( )の( )就( )学( )は( )極( )め( )て( )困( )難( )で( )か( )つ( )て( )有( )能( )き( )故( )治( )家( )を( )出( )し( )又( )司( )法( )界( )に( )教( )育( )界( )に( )藝( )術( )界( )に( )多( )く( )の( )人( )材( )を( )出( )し( )て( )い( )る( )奄( )美( )大( )島( )の( )現( )在( )の( )就( )学( )状( )況( )は( )私( )達( )母( )親( )の( )切( )實( )な( )悩( )み( )で( )あ( )り( )晝( )も( )夜( )も( )、( )子( )供( )の( )顔( )を( )眺( )め( )て( )は( )そ( )の( )將( )来( )を( )想( )い( )、( )そ( )の( )ろ( )に( )疾( )す( )る( )の( )で( )あ( )り( )ま( )す( )。

0094

あります。島内に於ける教育に於いては校舍復興は三〇%施設面に於いては皆無に等しい状態であり、農村の疲弊は極度に達し青年は沖繩或は日本本土へ渡航し又は家族引揚げが多く四百名 全人口の四%を示し、それらも政策的に余裕のある者に限られ残る者は益々疲弊して行く一方であります。私達奄美大島二十余万の同胞は祖國から切り離れ、今まで日本本土との連絡に於いて生きて来( )た( )島( )は( )死( )の( )一( )歩( )手( )前( )ま( )で( )迫( )り( )つ( )ま( )り( )て( )居( )り( )ま( )す( )。こ( )の( )に( )於( )て( )、( )私( )達( )は( )こ( )の( )人( )為( )的( )北( )緯( )二( )十( )九( )度( )線( )を( )撤( )廃( )し( )て( )横( )濱( )へ( )「( )日( )本( )復( )帰( )」( )を( )嘆( )願( )し( )続( )け( )て( )来( )た( )の( )で( )あ( )り( )ま( )す( )が( )一( )九( )五( )一( )年( )二( )月( )奄( )美( )大( )島( )日( )本( )復( )帰( )校( )議( )会( )を( )結( )成( )、( )部( )民( )十( )四( )才( )以( )上( )の( )日( )本( )復( )帰( )器( )名( )鑑( )物( )を( )展( )開( )、( )九( )八( )%に( )達( )し( )た( )の( )で( )あ( )り( )ま( )す( )。世界地図を掲げてみ( )ま( )す( )と( )わ( )が( )が( )針( )の( )先( )程( )の( )一( )桌( )に( )す( )ぎ( )な( )い( )奄( )美( )大( )島( )で( )は( )あ( )り( )ま( )す( )が( )そ( )の( )中( )の( )二( )十( )余( )万( )が( )母( )の( )國( )日( )本( )に( )帰( )ら( )る( )日( )を( )待( )ち( )侘( )び( )て( )い( )る( )の( )で( )あ( )り( )ま( )す( )。どうぞ日本の皆様方、同じ日本民族の一員であるこの私達の切なる願いを寫し御察察下さり、北緯

0095



二十九度線とこの鉄鎖を解いて下さる様、日本全國  
の輿論に訴える次第であります  
奄美大島婦人代表  
坂八重子  
橋口初枝

0096

0097

|   |   |
|---|---|
| <p>第一課長<br/>アジア局長<br/>第五課長<br/>二八六才<br/>二八七才<br/>昭和二十八年六月十六日<br/>麻見島知事<br/>外務省外務次官 殿<br/>奄美大島復帰促進のついで<br/>終戦直後 鹿児島県から切りはなされた奄美大島が一日も<br/>早く日本に復帰できるように県はあらゆる関係村に積極<br/>的に接洽してあります。さらに復帰運動を推進するため<br/>先般大島復帰調査連絡委員会を設置して総合的施策から<br/>ついで審議することになり、<br/>六月二十一日 南薩村は、別添資料は、当日配布いたし、<br/>そのとおり仰るを考慮して送付いたします。復帰促進の運<br/>動に全力をこめて協力賜うるようお願いいたします。</p> | <p>次<br/>官<br/>長<br/>外務省<br/>総務課長<br/>水</p> |
|---|---|

28.6.19

28.6.19

28.6.18

奄美大島復帰調査連絡委員会規程

第一条 (目的)

大島復帰調査連絡委員会(以下「委員会」という)は大島復帰促進に關する各般の事項について調査するとともに同地域に對する総合的施策について審議する

第二条 (組織)

- 1 委員会は会長一名及び委員二十五名以内をもつて組織する
- 2 委員会に幹事十名以内をおく
- 3 委員及び幹事は非常勤とする

第三条 (委員長)

- 1 会長は鹿児島県知事があたり会務を総理する
- 2 委員会は必要のつど会長が召集する
- 3 会長に事故があるときはあらかじめその指名する委員がその職務を代理する

第四条 (委員)

- 1 委員は關係各部長、關係諸官庁の長及び学識経験者のうちから、鹿児島県知事が任命又は委嘱する
- 2 委員の任期は二年とし、再任されることを妨げない
- 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする

第五条 (幹事)

- 1 幹事は關係各課長のうちから鹿児島県知事が任命する
- 2 幹事は委員会の所管事務について委員を補佐する

第六条 (庶務)

委員会の庶務は広報渉外課において処理する

第七条 (雜則)

この規程に定めるものの外委員会の運営に關し必要を事項は委員長が委員会にかつて定める



委員

鹿児島県副知事

寺園 勝志

総務部長

三ツ井 卯三男

企画室長

徳田 正明

経済部長

富谷 彰介

教育長

永野 林弘

鹿児島県農会会長

田中 茂穂

副議長

大西 栄蔵

総務委員長

脇田 寅三

鹿児島商工会議所会頭

勝田 信

入国管理事務所長

古川 重利

税関支署長

明正 幸三郎

海運局長

泉 貞二

国警隊長

田中 鐵

裁判所長

岩野 稔

検察庁検事正

富村 薫男

郵便局長

田島 俊治

大島郡出身代表

栗岡 武久

鹿児島海上保安部長

石丸 芳彦

幹事

鹿児島県企画課長

秘書課長

人事課長

庶務課長

地方課長

広報渉外課長

商工課長

教育庁管理課長

0099

RA'-0622

0082

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

# 外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

|        |       |            |            |            |           |            |            |             |
|--------|-------|------------|------------|------------|-----------|------------|------------|-------------|
| 琉球丸    | 1.21  | 283,800    | 2,176.77   | 16,250     | -         | 86.04      | 283,800    | 2,176.77    |
|        | 2.28  | 225,000    | 1,697.09   | -          | -         | -          | 241,250    | 1,783.13    |
| 野石山丸   | 2.24  | 263,630    | 2,015.50   | 194,030    | 1,025.29  | 457,660    | 3,040.79   | 1,47,358.72 |
| 小計     |       | 13,450,175 | 105,586.94 | 7,968,700  | 41,771.79 | 21,418,875 | 147,358.72 |             |
| 金星丸    | 10.1  | 16,380     | 133.32     | 38,500     | 189.51    | 54,880     | 322.82     | 日本船         |
|        | 11.26 | 118,000    | 964.44     | 69,590     | 361.89    | 187,590    | 1,324.33   |             |
|        | 12.20 | 319,090    | 3,548.36   | 40,600     | 236.07    | 359,630    | 3,784.43   |             |
|        | 1.18  | 369,150    | 2,836.28   | 260,330    | 1,391.23  | 629,480    | 4,227.51   |             |
|        | 2.8   | 185,830    | 1,567.03   | 127,000    | 661.34    | 312,830    | 2,228.97   |             |
| 銀星丸    | 10.21 | 438,000    | 4,415.32   | 516,430    | 2,685.42  | 954,430    | 7,100.75   |             |
|        | 11.13 | 224,790    | 1,720.89   | 43,130     | 212.29    | 267,920    | 1,933.18   |             |
|        | 12.6  | 236,340    | 1,884.07   | 110,050    | 574.03    | 346,390    | 2,458.10   |             |
|        | 3.20  | 82,300     | 693.05     | 225,000    | 1,186.14  | 307,300    | 1,879.19   |             |
| 千歳丸    | 11.2  | 196,580    | 1,504.19   | 115,660    | 569.30    | 312,240    | 2,073.49   |             |
|        | 11.30 | 511,330    | 3,888.17   | -          | -         | 511,330    | 3,888.17   |             |
|        | 12.22 | 129,000    | 1,140.96   | -          | -         | 129,000    | 1,140.96   |             |
|        | 2.9   | 336,710    | 1,078.57   | 114,000    | 596.17    | 450,710    | 1,674.74   |             |
|        | 3.4   | 142,680    | 1,107.43   | -          | -         | 142,680    | 1,107.43   |             |
|        | 3.25  | 154,150    | 1,473.52   | 137,000    | 725.12    | 291,150    | 2,198.64   |             |
| 望月丸    | 1.24  | 371,050    | 3,039.40   | -          | -         | 371,050    | 3,039.40   |             |
| 才十八多摩丸 | 2.25  | 15,580     | 139.52     | 84,000     | 462.18    | 99,580     | 601.70     |             |
| 山鳥丸    | 3.3   | 3,846,900  | 31,135.12  | 466,000    | 2,421.00  | 466,000    | 2,421.00   |             |
| 小計     |       | -          | -          | 2,347,290  | 12,271.70 | 6,194,190  | 43,406.82  |             |
| 総計     |       | 20,962,376 | 248,754.49 | 10,684,037 | 90,950.90 | 31,646,413 | 339,705.39 |             |

※註 結果善積金

金丸

|    |       |           |           |         |          |           |           |
|----|-------|-----------|-----------|---------|----------|-----------|-----------|
| 〃  | 12.24 | 265,910   | 1,924.78  | -       | -        | 265,910   | 1,924.78  |
| 〃  | 1.5   | 160,610   | 1,195.81  | -       | -        | 160,610   | 1,195.81  |
| 〃  | 1.13  | 132,630   | 1,008.68  | 21,740  | 400.12   | 154,370   | 1,408.80  |
| 〃  | 1.19  | 300,120   | 2,195.25  | 76,120  | 395.87   | 376,240   | 2,591.12  |
| 〃  | 1.27  | 285,470   | 2,323.51  | 51,500  | 267.80   | 336,970   | 2,591.31  |
| 〃  | 1.28  | 138,095   | 1,040.71  | -       | -        | 138,095   | 1,040.71  |
| 〃  | 2.2   | 213,980   | 1,788.79  | -       | -        | 213,980   | 1,788.79  |
| 〃  | 2.9   | 180,510   | 1,571.08  | -       | -        | 180,510   | 1,571.08  |
| 〃  | 2.17  | 171,480   | 1,463.43  | 36,750  | 191.09   | 208,230   | 1,654.52  |
| 〃  | 2.22  | 408,952   | 3,087.74  | -       | -        | 408,952   | 3,087.74  |
| 〃  | 2.24  | 197,150   | 1,478.28  | 106,010 | 487.37   | 303,160   | 1,965.65  |
| 〃  | 3.2   | 101,530   | 770.38    | 69,260  | 360.16   | 170,790   | 1,130.54  |
| 〃  | 3.8   | 361,245   | 2,769.27  | -       | -        | 361,245   | 2,769.27  |
| 〃  | 3.16  | 245,620   | 1,624.13  | -       | -        | 245,620   | 1,624.13  |
| 〃  | 3.22  | 108,040   | 817.09    | -       | -        | 108,040   | 817.09    |
| 〃  | 3.29  | 383,190   | 2,663.38  | -       | -        | 383,190   | 2,663.38  |
| 小計 |       | 3,654,532 | 27,722.13 | 361,380 | 2,102.41 | 4,015,912 | 29,824.54 |

徳山海軍

|    |       |         |          |         |          |         |          |
|----|-------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|
| 白丸 | 9.30  | 234,500 | 1,652.37 | 244,725 | 1,136.12 | 479,225 | 2,788.49 |
| 〃  | 11.7  | 176,475 | 1,368.94 | -       | -        | 176,475 | 1,368.94 |
| 〃  | 11.21 | 515,375 | 4,156.67 | 44,950  | 237.84   | 560,325 | 4,394.51 |
| 〃  | 12.6  | 208,200 | 1,609.25 | 47,300  | 250.28   | 255,500 | 1,859.53 |
| 〃  | 12.14 | 239,000 | 1,836.26 | 39,675  | 213.84   | 278,675 | 2,050.10 |
| 〃  | 12.24 | 568,500 | 4,285.30 | 85,820  | 454.19   | 654,320 | 4,739.49 |
| 〃  | 1.4   | 239,330 | 1,755.49 | 72,500  | 383.66   | 311,830 | 2,139.15 |
| 〃  | 1.23  | 135,700 | 1,095.57 | 116,200 | 614.85   | 251,900 | 1,710.42 |
| 〃  | 2.14  | 178,100 | 1,360.06 | 197,450 | 1,044.90 | 375,550 | 2,404.96 |
| 〃  | 3.22  | 193,000 | 1,604.92 | 198,330 | 1,049.45 | 391,330 | 2,654.37 |
| 美丸 | 10.5  | 273,125 | 3,134.51 | 170,300 | 845.03   | 543,425 | 3,979.54 |
| 〃  | 10.14 | 396,625 | 3,149.29 | 282,125 | 1,492.88 | 678,750 | 4,642.17 |
| 〃  | 10.25 | 373,850 | 2,975.27 | 223,600 | 1,183.15 | 599,450 | 4,158.42 |

|   |       |         |          |         |          |         |          |
|---|-------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|
| 〃 | 10.31 | 296,950 | 2,311.14 | 153,175 | 810.55   | 450,125 | 3,121.69 |
| 〃 | 11.15 | 337,950 | 3,000.00 | 207,575 | 832.25   | 545,525 | 3,832.25 |
| 〃 | 11.27 | 271,175 | 2,121.11 | 227,150 | 1,202.09 | 498,325 | 3,323.20 |
| 〃 | 12.4  | 364,750 | 2,822.24 | -       | -        | 364,750 | 2,822.24 |
| 〃 | 12.13 | 240,900 | 1,876.12 | -       | -        | 240,900 | 1,876.12 |
| 〃 | 12.22 | 240,930 | 1,928.52 | -       | -        | 240,930 | 1,928.52 |
| 〃 | 12.29 | 357,900 | 3,282.22 | 398,830 | 1,487.58 | 756,730 | 5,769.80 |
| 〃 | 1.9   | 388,800 | 3,071.66 | 109,750 | 580.32   | 498,550 | 3,552.43 |
| 〃 | 1.17  | 385,000 | 3,031.87 | 124,150 | 656.94   | 509,150 | 3,688.81 |
| 〃 | 1.27  | 389,900 | 3,004.16 | 279,030 | 1,476.48 | 668,930 | 4,480.64 |
| 〃 | 2.3   | 513,300 | 3,886.74 | 217,000 | 1,148.19 | 730,300 | 5,034.93 |
| 〃 | 2.11  | 95,275  | 752.88   | 211,500 | 1,119.21 | 306,775 | 1,872.09 |
| 〃 | 2.23  | 386,500 | 2,719.19 | 155,350 | 1,164.28 | 541,850 | 3,883.47 |
| 〃 | 3.1   | 75,950  | 599.70   | 188,400 | 1,002.83 | 264,350 | 1,602.53 |
| 〃 | 3.11  | 268,450 | 2,098.70 | 353,800 | 1,872.22 | 632,250 | 3,970.92 |
| 〃 | 3.20  | 230,530 | 1,807.27 | 94,090  | 497.42   | 324,620 | 2,305.69 |

高嶽山丸

|   |       |         |          |         |          |         |          |
|---|-------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|
| 〃 | 10.8  | 236,300 | 1,834.45 | 369,350 | 2,311.02 | 609,650 | 4,145.47 |
| 〃 | 10.28 | 366,775 | 2,893.73 | 307,425 | 1,626.82 | 674,200 | 4,520.55 |
| 〃 | 11.20 | 363,175 | 2,831.00 | 324,550 | 1,717.35 | 687,725 | 4,548.39 |
| 〃 | 12.12 | 218,950 | 1,686.69 | 151,325 | 802.83   | 370,275 | 2,489.52 |
| 〃 | 1.5   | 271,650 | 2,155.74 | 113,050 | 598.22   | 384,700 | 2,753.96 |
| 〃 | 2.1   | 567,425 | 4,481.53 | 120,175 | 635.98   | 687,600 | 5,117.51 |

十勝山丸

|   |       |         |          |           |          |           |          |
|---|-------|---------|----------|-----------|----------|-----------|----------|
| 〃 | 10.15 | 197,925 | 1,546.21 | 1,033,850 | 5,469.32 | 1,231,775 | 7,016.03 |
| 〃 | 11.5  | 420,650 | 3,588.68 | 288,525   | 1,526.80 | 709,175   | 5,115.48 |
| 〃 | 12.3  | 324,575 | 2,515.90 | 83,300    | 440.85   | 407,875   | 2,956.75 |
| 〃 | 12.23 | 275,900 | 2,112.48 | 180,230   | 953.62   | 456,130   | 3,066.10 |
| 〃 | 1.18  | 396,500 | 3,011.97 | 35,050    | 185.52   | 431,550   | 3,197.49 |
| 〃 | 2.12  | 239,050 | 1,821.46 | 181,000   | 957.66   | 420,050   | 2,778.82 |
| 〃 | 3.18  | 122,830 | 1,020.31 | 127,875   | 676.75   | 250,705   | 1,697.06 |



琉球定期船各港別積荷状況調査

自昭和27/01/01間  
至昭和28/02/28/間

鹿児島県

| 船名   | 自県港入港日 | 積貨物噸數  | 積貨物價   | 積資材噸數 | 積資材價   | 合計     |         | 備考     |
|------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|---------|--------|
|      |        |        |        |       |        | 噸數     | 價       |        |
| 白丸   | 10.2   | 457    | 3,720  | 75    | 394    | 532    | 4,114   | 大塚商報報告 |
| "    | 10.25  | 465    | 3,691  | 550   | 2,863  | 1,015  | 6,554   |        |
| "    | 11.9   | 421    | 3,189  | 330   | 1,733  | 751    | 4,922   |        |
| "    | 11.24  | 386    | 3,027  | -     | -      | 386    | 3,027   |        |
| "    | 12.12  | 422    | 3,408  | -     | -      | 422    | 3,408   |        |
| "    | 12.23  | 215    | 1,580  | 261   | 1,361  | 476    | 2,941   |        |
| "    | 1.12   | 478    | 3,867  | 127   | 664    | 605    | 4,531   |        |
| "    | 1.27   | 246    | 2,245  | 639   | 3,327  | 885    | 5,572   |        |
| "    | 2.13   | 326    | 4,790  | 205   | 1,069  | 531    | 3,559   |        |
| "    | 2.2    | 124    | 958    | 343   | 1,737  | 467    | 2,745   |        |
| "    | 2.16   | 241    | 1,887  | 282   | 1,467  | 523    | 3,354   |        |
| 千早丸  | 10.13  | 363    | 2,532  | 1,721 | 8,936  | 2,084  | 11,468  |        |
| 白龍丸  | 10.31  | 499    | 4,030  | 237   | 1,232  | 736    | 5,262   |        |
| 芥二六丸 | 12.5   | 404    | 3,200  | -     | -      | 404    | 3,200   |        |
| 黒潮丸  | 10.2   | 33     | 263    | -     | -      | 33     | 263     |        |
| "    | 10.12  | 270    | 2,157  | -     | -      | 270    | 2,157   |        |
| "    | 10.22  | 210    | 1,655  | -     | -      | 210    | 1,655   |        |
| "    | 11.2   | 159    | 1,264  | -     | -      | 159    | 1,264   |        |
| "    | 11.15  | 120    | 939    | -     | -      | 120    | 939     |        |
| "    | 11.24  | 606    | 4,775  | -     | -      | 606    | 4,775   |        |
| "    | 12.5   | 190    | 1,453  | -     | -      | 190    | 1,453   |        |
| "    | 12.16  | 232    | 1,776  | -     | -      | 232    | 1,776   |        |
| "    | 12.22  | 504    | 3,795  | -     | -      | 504    | 3,795   |        |
| "    | 1.14   | 428    | 3,259  | -     | -      | 428    | 3,259   |        |
| "    | 1.23   | 303    | 2,362  | -     | -      | 303    | 2,362   |        |
| "    | 2.2    | 444    | 3,318  | -     | -      | 444    | 3,318   |        |
| "    | 2.14   | 253    | 2,026  | -     | -      | 253    | 2,026   |        |
| "    | 2.28   | 329    | 2,525  | -     | -      | 329    | 2,525   |        |
| "    | 3.13   | 354    | 2,932  | -     | -      | 354    | 2,932   |        |
| "    | 3.22   | 171    | 1,347  | -     | -      | 171    | 1,347   |        |
| 永三六丸 | 10.14  | 132    | 947    | 487   | 2,586  | 619    | 3,533   |        |
| 帝華丸  | 11.12  | 165    | 1,290  | 462   | 2,405  | 627    | 3,695   |        |
| 海山丸  | 12.10  | 110    | 883    | -     | -      | 110    | 883     |        |
| "    | 12.30  | 316    | 2,392  | 358   | 1,865  | 674    | 4,257   |        |
| "    | 2.8    | 382    | 3,053  | 340   | 1,770  | 722    | 4,823   |        |
| "    | 3.13   | 11     | 75     | 250   | 1,346  | 261    | 1,421   |        |
| 小計   |        | 10,769 | 84,310 | 6,667 | 34,805 | 17,436 | 119,115 |        |



昭和二十八年六月二十二日

大島復歸調査連絡委員会

0103

RA'-0622

0086

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

まえがき

奄美大島郡島民の日本復帰については日本の講和條約発効前から熾烈に叫ばれていました。いよ／＼講和條約発効をみるにおよんで大島二十余万の島民は一九五二年四月二十八日を痛恨の日としてより強く復帰運動に総力を結集しています。

鹿児島県として奄美大島が復帰出来るようあらゆる角度から運動しており、またこれを実現すべく本委員会が最近発足しました。委員会として最初の大きな行事はさる五月三十一日のアメリカ合衆国故ルーズヴェルト大統領夫人と復帰問題についての会見でした。

左記は現在までの奄美大島復帰運動の経過概要ならびにルーズヴェルト夫人に提出した陳情書であります。

0104

1

RA'-0622

0087

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan



# 目次

|   |                       |   |
|---|-----------------------|---|
| 一 | 奄美大島復帰問題についての行動       | 三 |
| 二 | 奄美大島に関する国会決議書         | 四 |
| 三 | エリノア・ルースヴェルト夫人の知事あて書簡 | 五 |
| 四 | ルースヴェルト夫人に手交した陳情書     | 六 |

0105

## 奄美大島復帰問題についての経過概要

|        |         |  |
|--------|---------|--|
| 昭和二十七年 | 一〇月二三日  | 知事奄美大島訪問・郡民大会にて挨拶  |
|        | 一〇月二六日  | 知事琉球軍司令官ベイトラー少将と会見   |
|        | 一〇月三〇日  | 知事岡崎外相に実情報告・協力方懇請  |
|        | 一〇月下旬   | 教育長大島教育概況視察  |
|        | 十一月四日   | 知事鹿兒島市自治会館における県民大会に出席実情報告  |
|        | 十一月五日   | 知事県議会において状況報告  |
|        | 十一月十一日  | 知事NHK鹿兒島放送局を通じ奄美大島の実情放送  |
|        | 十一月十七日  | 全国知事会議において知事奄美大島復帰について協力方懇請                                      |
|        | 十一月十八日  | 知事S・Mリー前ユネスコ駐日代表と会いパリーのユネスコ本部に復帰促進方を要請                           |
|        | 十一月十九日  | 知事米国共和党政治顧問ドルマン氏と会見  |
|        | 十一月二十三日 | 県名瀬市長と共に古田首相訪問・復帰について協力方懇請<br>(十一月二十五日衆院本会議において大島問題について決議案上程)    |
| 昭和二十八年 | 一月十七日   | 午前、知事総司令師・極東軍総参謀長ヒギー中将と会見・懇請<br>午後、知事権方副総理に協力方懇請                 |
|        | 一月二十三日  | 知事午前五時鹿兒島市庁舎前にて大島復帰問題をめぐる街頭録音ゲストとして出席                            |
|        | 二月三日    | 知事大島派遣学生と会見・激励   |
|        | 五月五日    | 総務部長大島・沖縄視察  |
|        | 五月十八日   | 知事奥野外務次官と会見・復帰運動について今までの経過報告                                     |
|        | 五月三十日   | 知事特選「ツバ」の単中で未朝中のルースヴェルト夫人と約二時間会談、大島の事情をつぶさに説明・復帰について協力方懇請        |
|        | 五月三十一日  | 知事米国スクリップス・ハワード系新聞編集代表オーランド・デイ・ラルセル氏と会談・現状を詳細説明し、復帰促進について協力を懇請する |
|        | 六月一日    |  |

0106

— 2 —

RA'-0622

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan



MRS. FRANKLIN D. ROOSEVELT  
202 FIFTY-SIXTH STREET WEST  
NEW YORK 19, N.Y.

May 16, 1953

Dear Mr. Governor:

I have read your letter with interest and if I reach your island, I will be more than happy to have a talk with you. I will show your letter to Dr. Takagi as soon as I get to Japan and if it is possible, I am sure he will arrange a visit.

Very sincerely yours,

(Signed)  
Eleanor Roosevelt

知事様

一九五三年五月十六日

貴男の御手紙を興味深く拜見しました。

貴國に到着して貴男と御話するのを願にたのしみにして居ります。私は日本に到着次第、直ちに御手紙を「高木」博士にお見せしまして若し可能な場合は彼は即ち貴男の御訪問を準備して下さる事と確信いたします。

(エリナー・ルーズベルト)サイン

ニューヨーク市十九区五六街西二〇二

フランクリンD・ルーズベルト夫人

奄美大島に關する決議

(昭和二十七年二月二十五日官報等外記)

本院は、奄美大島、沖縄、小笠原諸島の旧日本領土の復帰について、しばしば国民の熱望を明らかにし、政府に対しそれ等適切な措置を講ずべきことを要望した。

しかるところ近時実情を調査するに、もと鹿兒島県の一部であった奄美大島は、本土との人的、物的關係、特に深きためその二〇余万の住民の本土復帰の熱望は殊に強く、ほとんど生活の一切をこれにかけている有様であるのみならず、同島の住民が実情において現在の鹿兒島県民に比して民生上、教育上、經濟産業上、格別の差異があり、もとむとしく鹿兒島県民たりし事実にかんがみ、このまゝみ過すことを得ないものと認められる。

よつて本院は、政府に対しこの際旧日本領土の復帰について、必要なるあらゆる措置を講ずるとともに、是し当り鹿兒島県大島郡において特段の配慮をなし、その住民が産業、交通、教育、民生、遺家族援護、連絡等生活の各段において、本土住民と同等の取扱を受けることを実現するための措置を速やかに講ずることを要望する。

右決議する。

RA'-0622

0089

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

奄美大島の日本復帰に関する陳情書

鹿児島県大島郡は、一九四六年二月二日の連合軍司令官の命令により、北緯三〇度線をもって立法、司法、行政の三権が日本と分離されたが、対日平和條約によつてはこれが北緯二九度線によつて分割され現在にいたつてゐる。従つて鹿児島県大島郡の存在は大体以上のものであるが、七年にわたる本國との分割によつて、いまやこれらの島は、政治、経済、教育、文化などあらゆる面で甚だしく窮乏し、本國復帰が実現されなければ、すでに救うべからざる状態にあるので、人道的な立場から貴下の御援助を仰ぎたいと存じます。

(1) 日本と大島との関係

A 歴史的な関係

奄美大島別島はすでに六一六年ころから日本の行政下にあつたことが歴史的事実によつて証明されている。そして今から三四四年前に、鹿児島藩の封建大名の管下に入り、明治政府が出来てからは、鹿児島県の一行政区として大島郡となつた。

B 血縁的な関係

現在大島に住んでゐる島民の数は、約二〇万人であるが、この島民にくらべて、日本に住んでゐる大島郡出身者の数は約一八〇万である。これだけをもつてみても大島郡の島民と日本との血縁的なつながりがどんなに一体となつてゐるかわかり、これを分割することが無理なこととも理解できる。

C 経済的な関係

鹿児島県の行政下にあつた時代の大島郡の経済は、大島つむぎ、黒糖の日本への移出によつて支えられていた。すなわち戦前の大島の「大島つむぎ」の生産は二八万反で、全移出の六〇%、黒糖の生産量は約一七万斤で移出量の二〇%で、この二つで全移出の八〇%を占めており、日本本土と経済的に分割されれば大島の自立経済は根本的に崩壊せざるを得ない関係にある。

人口配分から見ても、島民の子弟は本土を就職先としており、それらの故郷への送金も大島経済の大支柱であつた。

D 文化的な関係

すでに以上のような条件からみても推察されるが、言語、文字、宗教、風俗習慣、新聞、ラジオ、映画、学校教育すべて日本と同一で何ら異なることはない。

(2) 悲惨な大島郡の現状

A 一般的な苦境

立法、司法、行政の三権が日本から分離されたが、この三権のうちでも行政権の分割は、島民と日本との交通、貿易などを非常に困難にしている。一九五三年二月二日にこの制限はある程度緩和されたが、それでも外国間の交通と同じ取扱がなされるので、旅券、郵便送金、交易は複雑な手続と六〇日から九〇日にもわたる長時日を要し、それがために一般島民は物的、人的交流に甚だしく悩まされ、経済的にも苦境に追はまれている。

B 経済的な窮乏

右に記したように、大島郡の経済は「大島つむぎ」と黒糖の日本への移出、日本本土に在る郡民からの送金の三つに支えられていたが、行政の分割以後は、交通、交易、送金、資金が思うようにならないために、黒糖が戦前の生産額の三〇%に「大島つむぎ」が一五%に低下し、一九五二年においては大島郡の輸出入は、輸出二百四十一万七千七百一十四ドル、輸入三百六十六万四千四百五十三ドルと大きな輸入超過になつてゐる。産業の不振による住民の困窮の一例をあげれば、戦前「大島つむぎ」の生産に従事していた者は、二万四千人へ住民の約一割であつたが、これが最近では約四千人に減り、桎梏も三分の一しか操業してゐない状況である。

このような経済の窮乏、失業の激化は深刻な産業の荒廃、人口の島外流出となつて現われているが、島民の現状は配給食糧をとれない者がだん／＼承え、住民の六〇%はかるうじて飢をしのいでいる有様で、中にはソテツの実のみ、粉や野草を食つてゐるものもいるくらいである。

C 住民の島外への離散

経済的な深刻な窮乏、文化的な貧困は島民の外地への流出となつて現れてきている。一九五一年末の大島郡民の人口は二一萬九千二百人であつたが、一九五二年末には二〇万六千五百六十六人に減つてゐる。現在でもこの傾



向はつゞき、毎月沖縄に流出する人口は月平均一千人に及んでおり、この人口の流出は大島郡の絶状を何よりも雄辯に物語っている

D 教育、文化の荒廃

学校教育の荒廃は校舍に茅屋根、石壁、土間校舎、ガラスのない教室が多いことでもわかる。教科書、文具、圖書の不足教員養成の困難は児童生徒の学力低下となり、日本のそれとは二、三年のひらきがあり、日本への進学も大きな困難がある。

E 人道の問題

このような経済的、精神的な窮乏は、青少年の犯罪などを増加させている。小学校五、六年の児童四百六十二名について調査したところ、家から逃げ出した者一〇名逃げ出したことのある者七四名、死んだ方が良いといつた者一八名となっており、希望を失った青少年の犯罪には当局も対策に苦慮している。生活困窮者のなかでも二万名に及ぶ戦争遺家族は九〇%まで生活困窮者で、五八〇名にのぼる戦争未亡人は路頭にさまようような生活を続けている。それにまた最も寒心にたえないのは、経済的窮乏のために島民の女子が、好ましく無い販賣を求めてつづつ空に琉球などに流出していることである。

(3) 米國への訴え

このような窮乏した状況にあって、島民は数回の回数百回に及ぶ復帰郡民大会を行い血書請願、断食請願、一四才以上の島民の九八%に及ぶ署名運動などもつゞけ、日本では鹿児島で復帰県民大会、東京では復帰國民大会を行い、鹿児島県議会、國會でも復帰促進の議決を行っている。大島郡民一九万はいわば孤島に封鎖され、精神的にも物質的にも民族分離の苦痛にさびざりるところまできている。これを解決する途は、せめて行政権の復帰だけでもさしあたり実現され、交通、交易、島音が自由になることであり、それが実現すれば日本との相互扶助によつて、途はどのようにでも開けるのである。

日米の親善は、窮乏と飢餓のなかから生れようとは思われぬ。将来の日米友好のためにも、また人道的立場からも貴下のこの問題に対する深い御理解と御援助を切にお願いしま

一九五三年五月三十一日

日本國鹿児島県知事 重 成 格

エリノア・ルースヴェルト夫人殿



奄美大島の現状

- 一、奄美郡島経済の窮状
- 二、経済窮乏の原因
  1. 貿易の不均衡
  2. 基本産業の衰微
  3. 政府補助金の停止
  4. 金融の硬化
    - A. 通貨の減少
    - B. 預金の減少
    - C. 金融引締め

一、奄美郡島経済の窮状

奄美郡島は今時大戦の戦災を蒙り、基本産業の生産手段を喪失したのみでなく、二宣言により母國政府の強力な補助援助が切断せられ、即島生産品の市場を失った結果本郡島の経済は復興の原動力を失い逐次縮小の一途をたどり住民生活は年と共に窮迫の度を加へて今日に至つたその間米國政府の復興予算による補助があつたのであるがこれは戦災の傷手を蒙つた本郡島の経済の再建には遠く及ばないものであつて奄美郡島経済の縮小を防過するには至らなかつた。

加うるに食糧を主とする生活必需品の輸入は輸出を遙かに上廻り果ては輸入超過の推積の結果通貨を吸取枯渇せしめるに至り、極度の金詰りを招来して生産の縮小と失業者を増大し住民の生活水準を低下せしめ購買力の弱退は企業を危殆に陥れ今や郡島経済

米國軍政府  
復興予算及補助金

| 年次    | 復興予算        |
|-------|-------------|
| 1,947 | 8,818,243   |
| 1,948 | 8,466,547   |
| 1,949 | 11,817,509  |
| 1,950 | 31,466,470  |
| 1,951 | 81,786,446  |
| 1,952 | 85,099,720  |
| 計     | 227,454,935 |

備考 上記金額の中島産生産を判裁する方面に投下せられた分は僅かに830万34円である

三の四

の窮乏はその極度に達して居るのである。

これは直に住民の日常生活に重大な影響を及ぼし生活苦から来る窃盗犯を主とする犯罪件数の増大失業者の増加、転落受救者の激増をもたらす購買力は低下して主食食糧受給すら不可能となり受配人口の約五〇%が甘藷・蘇鉄に切替へて辛うじて生命をつないで居る状態であつてそのため内地引揚、沖縄轉出等のため一九五二年初頭より毎月約一千人が本郡島から姿を消し一ヶ月の間に約一万人が減少して居る有様である。

斯くて生活不安から来る人心の動搖は思想の悪化となりて現れて居る現状にある。

犯罪件数の増大  
名瀬地区管内

| 年次    | 犯罪件数  |
|-------|-------|
| 1,951 | 623   |
| 1,952 | 1,304 |

受保護者の激増

| 年次    | 受保護者数 |
|-------|-------|
| 1,947 | 4,688 |
| 1,948 | 6,454 |
| 1,949 | 6,686 |
| 1,950 | 7,150 |
| 1,951 | 7,277 |
| 1,952 | 8,547 |

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 割当量  | 1,227,678 <sup>Kg</sup> |
| 受配量  | 627,945                 |
| 未受配量 | 599,732                 |

| 戸        | 人口      |
|----------|---------|
| 1,952年1月 | 214,134 |
| 2        | 213,661 |
| 3        | 213,200 |
| 4        | 212,188 |
| 5        | 211,148 |
| 6        | 210,169 |
| 7        | 209,357 |
| 8        | 208,238 |
| 9        | 207,042 |
| 10       | 206,083 |
| 11       | 205,703 |

失業者の増大

- 一、狭小な地域に形大な人口を抱へ更に経済不況による企業の縮短は失業者の増大となり零細農家の転落現象と共に大きな社会問題となりつゝある。
- 二、本郡島に於ける農耕上零細転落農家と見做されるものは約九千戸（家族を含めて三万七千人）此の他に他産

二、経済窮乏の原因  
 1. 貿易の不均衡  
 一 国経済の成否は先づ国際收支の均衡如何にかゝつて居るのであるが本郡島の対外收支勘定は著しい不均衡を  
 見せて居る。

| 年     | 輸 入         | 輸 出         | 入 超         |
|-------|-------------|-------------|-------------|
| 1,947 | 15,129,460  |             | 15,129,460  |
| 1,948 | 31,298,523  |             | 31,298,523  |
| 1,949 | 40,369,671  | 7,034,431   | 33,335,240  |
| 1,950 | 140,605,426 | 6,049,753   | 134,555,673 |
| 1,951 | 491,685,360 | 274,326,040 | 217,357,200 |
| 1,952 | 609,460,513 | 272,300,681 | 337,159,831 |

即ち異年超過の結果奄美郡島の経済は後退の一途を辿つて居るのであるが僅かに軍政府の復興予算、補助金及び沖縄に対する木材家畜類の移出等によつて辛うじて経済を維持して来たのであつた。  
 然るに一九五三年度以降は補助金打ち切りとなり、この貿易面の取返を補うことが出来なくなつたため経済の窮乏は、一九五二年後半以降に顕著な現象となつて明瞭に住民生活の上に顕れて来て居るのである。

奄美郡島は戦前大體に於て輸出入の均衡がとれて居り、むしろ貿易面に於ては黒字の経済であつた。

戦前の貿易収支

| 年次      | 輸 入          | 輸 出          |
|---------|--------------|--------------|
| 昭6      | 5,941,717    | 6,125,332    |
| 7       | 5,609,267    | 5,582,566    |
| 8       | 5,848,063    | 6,041,675    |
| 9       | 6,097,695    | 6,420,948    |
| 10      | 6,210,494    | 6,349,631    |
| 11      | 5,951,574    | 6,038,005    |
| 12      | 不 明          | 不 明          |
| 13      | 7,639,714    | 7,728,272    |
| 日<br>換算 | 1145,957,100 | 1159,240,800 |

備 考  
 昭和6年より12年までは物価指数不明のため日円換算せず昭和13年のみ物価指数、150倍に付き換算す

2. 基本産業の表徴  
 然るに戦後においては市場及び生産機構と施設を喪失したために黒糖、大島油の基本産業が復興せず従つて輸出は全く不振の状態である

基本産業復興率

|     | 復興率 |
|-----|-----|
| 黒 糖 | 30% |
| 大島油 | 15% |
| 百 合 | 32% |
| 壺 師 | 40% |

戦前大島油は本諸島の戦前輸出総額十ヶ年平均五十五%を占めて居り、経済を左右する重要産業であつた。  
 戦後二十九年度線を相隔つては日本市場開拓することが困難であつたが一九五一年末漸く市場復活の曙光を見出したに過ぎない。

大島油生産反致

| 年 次   | 油生産反致   |
|-------|---------|
| 1,940 | 217,590 |
| 1,941 | 337,548 |
| 1,942 | 258,338 |
| 1,943 | 251,024 |
| 1,944 | 41,982  |
| 1,945 | —       |
| 1,946 | 3,620   |
| 1,947 | 3,840   |
| 1,948 | 6,670   |
| 1,949 | 1,070   |
| 1,950 | 681     |
| 1,951 | 22,294  |
| 1,952 | 34,176  |

黒糖生産量

| 年 次   | 生産量        |
|-------|------------|
| 1,937 | 19,789,110 |
| 1,938 | 22,741,283 |
| 1,939 | 32,963,869 |
| 1,940 | 17,735,851 |
| 1,946 | 915,374    |
| 1,947 | 2,117,374  |
| 1,948 | 2,433,250  |
| 1,949 | 3,057,385  |
| 1,950 | 3,597,612  |
| 1,951 | 12,500,000 |
| 1,952 | 11,500,000 |

黒糖は戦前輸出総額十ヶ年平均十八%を占める重要産物であつたが一九五〇年、自由貿易施行以来順に生産を増大して居るとは言へその復旧未だ遠く食糧事情と関連するところがあり且つ日本市場の外国糖輸入により販売価格の問題が介存し現狀に於いては戦前の実績を取戻すこと

3. 本郡島経済復興のためにはこの二大産業の復興は最も重要な課題である。  
 は困難視されて居る。  
 政府補助金の停止



戦前本即島の経済はその輸物代金と内地出稼者の送金及び国果の予算及び振興計画に基く補助金によって維持されてきた。

戦前の政府予算及補助金  
1937年

|      |           |
|------|-----------|
| 國費予算 | 768,078   |
| 県費   | 954,613   |
| 下附金  | 437,548   |
| 振興費  | 982,388   |
| 計    | 3,142,627 |

この金額は現在の通貨の価値に換算するときは三億五千万円程度になり琉球政府の年向予算の奄美郡島割当は一億三千万円であるに比較すれば三倍に近い金額である。

この予算及び国庫下附金は経常費であるが特に振興費補助は一九二九年に始まり終戦時まで継続せられたものであつて、この計画によつて産業は漸次高率化せられ住民生活の向上安定に寄与するところ極めて大なるものがあった。

これに比較して終戦後米國軍政府が与えた復興予算の補助（頁参照）は露に消極的に戦災を復旧するに止まり積極的産業振興政策の実施には至らず従つて経済復興は販路の喪失等の隘路もあり意の如く進捗せず縮小の一路をたどつて今日に至つて居る。

4. 金融の硬化  
a. 通貨の減少

輸入超過は一九四八年以来その累計は七億六千七百円に達して居り本即島の通貨を急激に吸収枯渇せしめて居る。この輸入物資の中には生活上絶対に必要なガリオア資金による主食食糧が含まれて居るのでこの食糧代金によつて吸収せられる金額が大部分を占めて居りこれは見返資金となつて民間に還元せられなければならぬにもかゝらず軍政府の補助金はこの吸収金額に見合はずこの六ヶ年間に僅かに二億二千万円にすぎないかゝる通貨の急激な吸上げにより民間流通通貨は減少し蓄積資本を脅かしむしる輸入超過分と軍政府補助金の差額五億五千万円の赤字はそれだけ資本を減少せしめて賄はれたものであつて戦前の蓄積資本が戦災によつて灰燼に帰して居る上に更に資本の減少を来すことは本即島経済をして再起不能の状態に投込んで居るものである。

斯くして通貨は枯渇して運営資金の缺乏を来すのみならず資本の減少は利率を低下せしめ生産能力を削減し

て縮小再生産をもたらし産業の換短は失業者を増大して生活を脅威し購買力の低下は中小企業を倒産に導いて居る状態である。

そのため住民の金詰りはその極に達し名瀬市に多い日傭労働者の生活は全く悲惨を極めて居りそれは飲食娯楽缺席児童の増加となり一方輕苦等救護者の激増となつて社会問題を提供して居る。

これに比し沖縄地区は貿易面に於ては年向約三十八億円の入超に拘らず軍作業を中心とした島内帛帛貨獲得事業年向収入五十億円の産じ支離的な取行経済であるといへ所謂帛帛貨過剩現象の現象を来している状態である。

そのためあらゆる企業は活潑に活動が妨げられ住民所得は増大して生活水準を高めて居ることは大島の経済が破局直前の危機にあることからすれば要泡の相違があり住民が版を求めて沖縄に移動する所以も亦実にここに在る。

予金状況

| 月    | 予金高         | 払出高         | 残・高         |
|------|-------------|-------------|-------------|
| 1944 | 270,730,794 | 255,292,917 | 171,328,211 |
| 5    | 271,045,203 | 260,139,548 | 174,681,519 |
| 6    | 209,446,222 | 240,075,955 | 154,259,262 |
| 7    | 193,071,442 | 186,753,175 | 153,282,257 |
| 8    | 199,536,170 | 186,796,889 | 162,758,409 |
| 9    | 165,956,126 | 169,152,537 | 156,109,355 |
| 10   |             |             |             |
| 計    |             |             |             |

即ち住民の預金能力四月以後六ヶ月の間に於て約一億円を減少せしめて居る。



C. 金融

一九五二年四月以降に於ける金融機関の貸付は漸次引縮めの傾向にあり毎月平均一千万円程度の収縮を見せて居り一九五二年九月に於ては四月の三分の一に激減して居る。  
このため流通面の金詰りはこれを明瞭に示すことが出来る。

金融機関の貸出抑制により産業資本の不足を未だして生産活動を縮小せしめ対外收支の入超による通貨の収縮と相俟つて経済界は甚微滞し現在の艱乏の根本原因を形成して居る。

特にこの貸出金額の本諸島内琉球支店に於ける一九五二年七月の貸出合計は約三千万円であつてこれを琉球本支店合計の貸付高が全年平均二億三千八百万円であるのに比較すると奄美郡島は僅かにその一二・六%を占めて居るのであつて、全琉的に見ても奄美島の金融硬直が明瞭である。

貸付状況

| 月  | 貸付高        | 回収高        | 残高          |
|----|------------|------------|-------------|
| 4  | 96,721,256 | 67,370,513 | 209,146,891 |
| 5  | 76,021,606 | 62,783,801 | 220,560,578 |
| 6  | 56,269,814 | 54,268,312 | 206,117,271 |
| 7  | 46,911,824 | 38,588,252 | 203,870,123 |
| 8  | 37,444,984 | 31,405,482 | 212,173,307 |
| 9  | 31,457,955 | 28,694,562 | 195,        |
| 10 |            | 31,684,562 | 225,163,089 |
| 平均 | 52,235,000 | 44,970,000 | 210,426,000 |

4. 租税負担の過重

金融の硬化、産業資本の不足、失業者の増大等奄美郡島の経済が漸次縮小して経済活動が危殆に瀕して居るにも関わらず租税公課は消費税、物品税等向増税の増加により大衆に転荷され日常生活に脅威を与へて居るのみでなく利潤に対して賦課せらるべき租税が利潤率の低下した現在の経済によつて負担せられる結果産業の資本に喰ひ込むこととなり縮小再生産の大きな原因となつて居る。

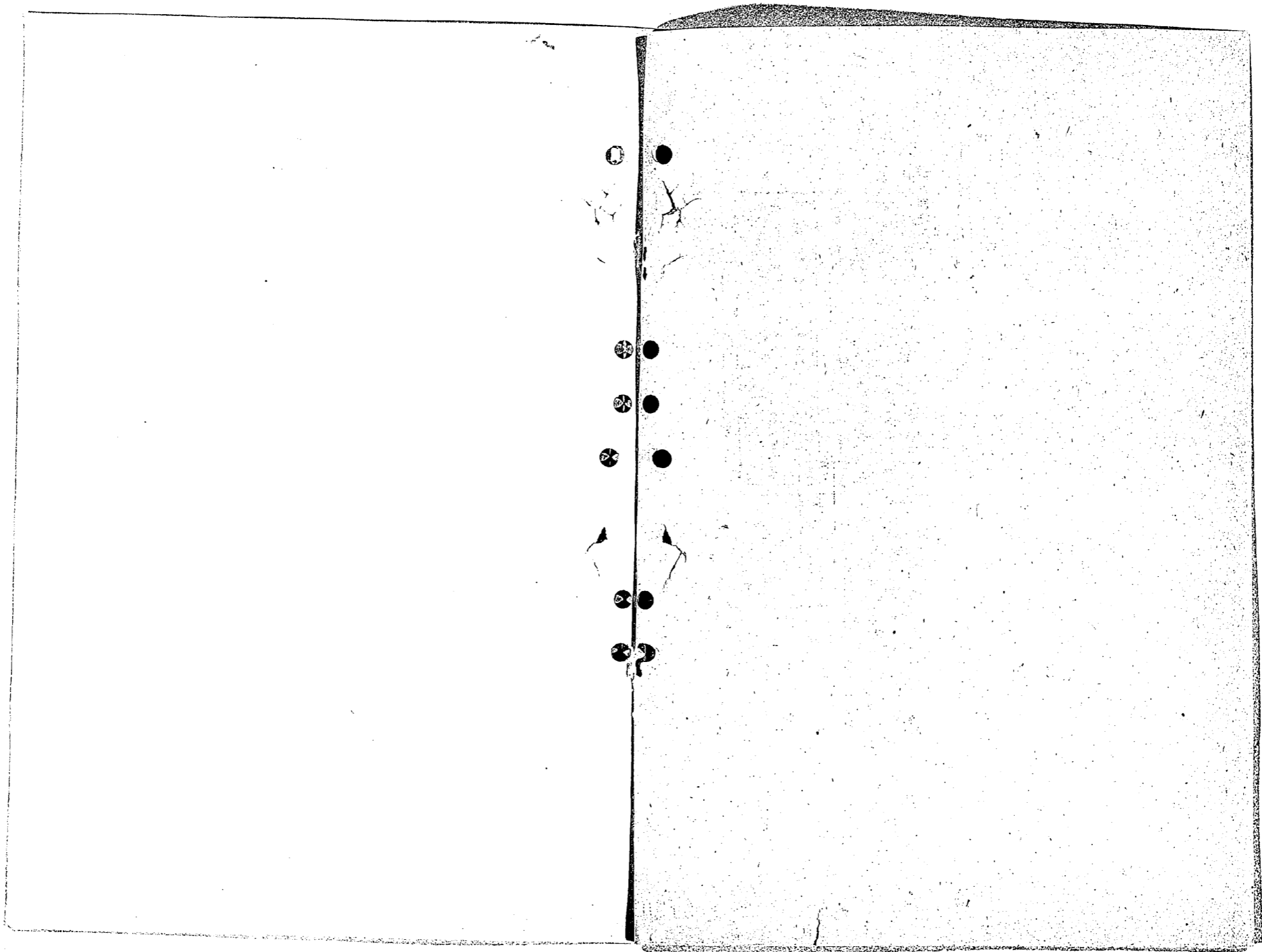
四の外の外

租税負担比較表

| 区分     | 政府税                   | 市町村税                  | 計          |
|--------|-----------------------|-----------------------|------------|
| 奄美群島政府 | 六四七五八四〇八円<br>(教育費を含む) | 一五九二二七四四円<br>(教育費を含む) | 八〇六七〇二五八二円 |
| 琉球政府   | 七〇五五三三三〇円<br>(教育費不食)  | 一九八八六一七円              | 七〇四三〇一三七円  |

即ち経済の縮小した一九五三年度は一九五〇年度よりも遙かに軽減しなければならぬのに対して遂に一九五二年よりも過重に課税せられて居る政府税七千万円を戦前の国県税平均七千万円に比較するときは物価が百倍に上昇したものとしてみても丁度戦前と同額の租税となり生産が半減し果年輸入超過を未だして居る本群島から戦前と同額を徴収することが既に租税の過重負担であることは否めない。





RA'-0622

0096

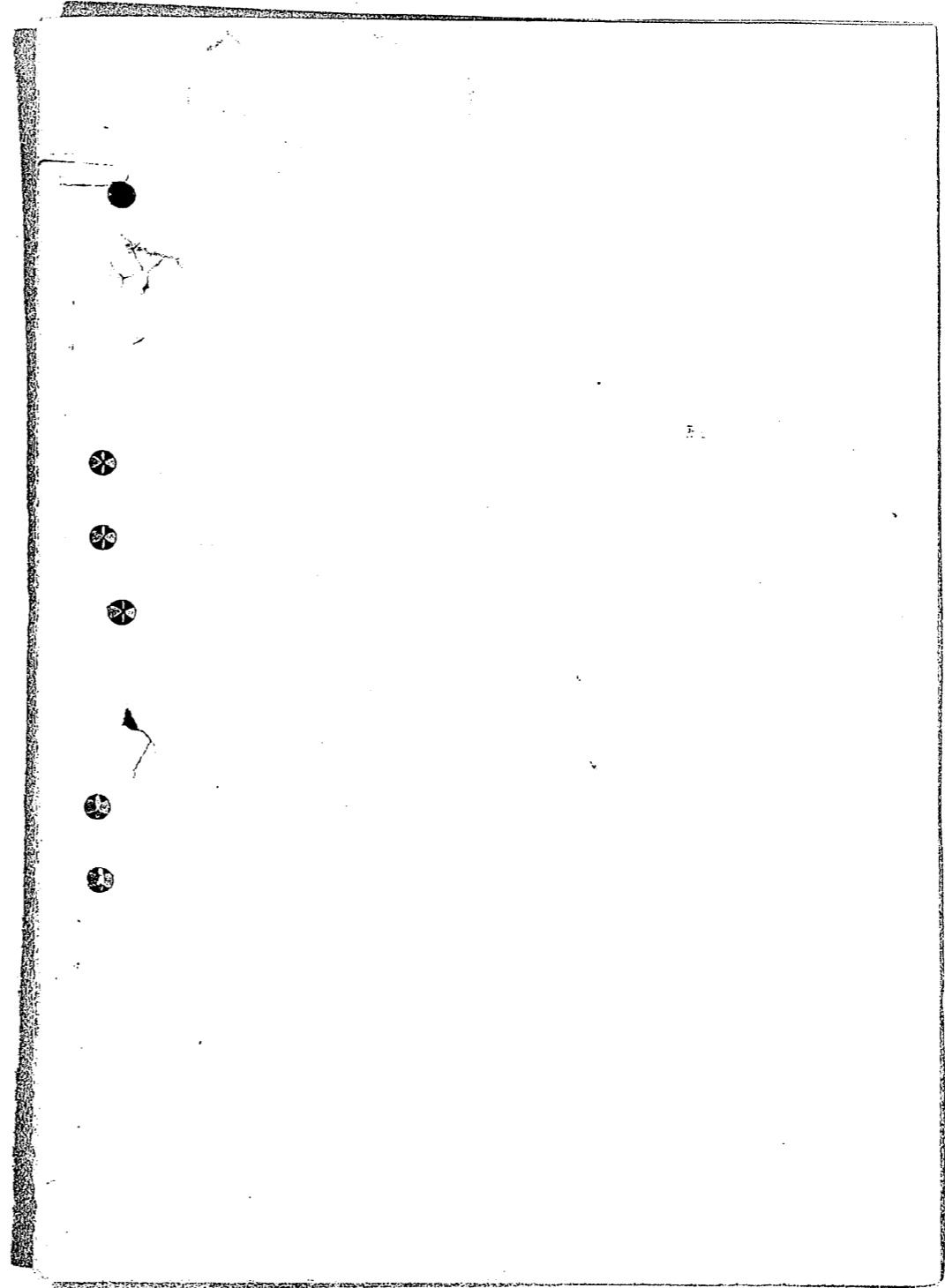
外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan



RA'-0622

0097

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan